

ニシテ全ク左ニ列舉スル疑點ニ外ナラス就テハ其解釋區々ニ涉リテハ調理上差支ヘクニ付一定ノ御省議承知致度云々

一 解職就職年月日又ハ更迭年月日ヲ記載スルハ前後兩任官吏ノ取扱ニ付テ其責任ノ屬スル時日ヲ分界スルカ爲メ必要ノモノト思料セリ果シテ誤認ナキヤ

二 前項果シテ誤認ナシトセハ其分界ハ實際職務ヲ了ヘ又ハ職務ニ就キタル日ヲ以テスヘキモノニシテ敢テ任免發令等ノ日ニ關係ナシト認ム如何

三 實際職務ヲ了ヘ又ハ職務ニ就キタル日トハ全ク事務引繼ノ日ト密接スルモノニシテ事務引繼ノ日ハ即チ前任者ノ職務ヲ了リタル日又其翌日ハ後任者ノ職務ニ就キタル日トナシ可然ヤ

追テ内務省所管出納官吏異動貴省大臣へ報告スル分ハ同省庶務局長回答ノ次第モ有之ニ付實際事務引繼ヲナシタル日ヲ以テ更迭年月日トナシ報告方取計フヘキニヨリ爲念申添フ

大藏省主稅局回答 二十八年十二月二十八日

訓令第五十號書式ニ於テモ亦同様ノ義ナリ就テハ各項ハ左ノ通

第一項見込ノ通

第二項前後兩任者ノ責任ハ解職就職ノ日ニヨリ區分スヘキモノニシテ強テ任免發令ノ日ニ依ルヘキ義ニ無之

第三項前項ニヨリ了知セラレ度

○雜部金拂込書及引出切符ニ押捺スル印章ノ件 三十一年七月廿二日坤第五三四〇號ノ二大藏大臣官房第四課長通牒 別紙乾第二〇九二號寫ノ通大藏次官ヨリ通知有之候條此段及御通牒候也

(別紙)

乾第二〇九二號

明治廿二年十月當省令第十三號出納官吏現金取扱規則ニ據リ出納官吏ノ取扱フ雜部金拂込書及引出切符ニ押捺スル印章ハ官印ヲ押捺シ又ハ私印ヲ押捺スル等區々ニ出テ候趣ノ處右ハ取扱上不便ニ付自今總テ官印(官印彫刻以前ニ拂込ヲ要ス)

ル場合ハ特ニ私印ヲ押捺スル様致度其向々へ御通達相成度

明治三十一年七月十八日

大藏次官 添田 壽一

大藏次官 添田壽一殿

追テ本文私印ヲ押用スル場合ハ其事由書ニ私印鑑ヲ添へ金庫ニ送付相成度此段申添候也

第四章 收入證明

○會計検査院達第十一號 二十七年四月二十五日

租稅收入證明規程

第二條 會計規則第九十五條第九十七條ニ據リ收入官吏ヨリ會計検査院ニ證明スヘキ租稅收入計算書現金出納計算書ハ別記第一號及第二號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 一會計年度中收入官吏ノ交替アリシトキ後任收入官吏ノ證明スヘキ租稅收入計算書ニ於テハ尙ホ前任收入官吏ノ計算額ヲ併算スヘシ
前任收入官吏ヨリ提出スヘキ收入計算書中調定濟額ハ當該歲入調定官ノ保證ヲ受ケテ之ヲ提出スヘシ

身元保證金ヲ納メタル分任收入官吏交替ノトキハ特ニ其計算書ヲ調製シ證明ヲ爲スコトヲ得但シ此場合ニ在テハ主任收入官吏ヲ經由スヘシ

第三條 租稅收入未濟ノモノ又ハ滯納處分ヲ爲シタルモノアルトキハ別記

第三號及第四號書式ニ依リ其明細書ヲ調製シ租稅收入計算書ニ添付スヘシ

第四條 左ノ事項ハ各其計算書ノ備考ニ記載スヘシ但事ノ複雑ニ涉ルモノ

ハ説明書若クハ其所由ヲ確認シ得ヘキ書類ヲ添付スヘシ

一 前年度繰越ノ收入未濟額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其金額事由

二 市町村ニ於テ其亡失稅金ノ責任免除ヲ受ケタルモノアルトキハ其金額事由

三 缺損補填金ヲ受ケタルモノアルトキハ其金額事由

四 金庫又ハ囑托收入官吏其他へ拂渡未濟ニ係ルモノアルトキハ其金額事由

第五條 現金出納證明上提出スヘキ證憑書類ハ金庫ノ領收證書トス

第六條 滯納處分ニ關スル證憑書類左ノ如シ

一 國稅滯納處分法第十一條ニ據リ囑托收入官吏へ現金ヲ送付シタルモ

ノアルトキハ其領收證書

二 國稅滯納處分法第四十三條ニ據リ債主又ハ滯納者等へ現金ヲ交付シタルモノアルトキハ其領收證書

三 滯納者ノ所在不分明ニ據リ金庫ニ寄托シタルモノアルトキハ保管金領收證書ノ謄本

四 財產賣却調書但國稅滯納處分法第五條ニ據リ直ニ缺損處分ヲ爲シタルモノアルトキハ當該長官ノ保證書トモ

第七條 證憑書類ハ所屬年度ニ區分編纂シ其金員枚數ヲ表記スヘシ但枚數僅少ナルトキハ合冊ト爲スモ妨ナシ

第八條 下検査官吏ハ計算書ノ下検査ヲ完了シ左ノ期日内ニ其廳ヲ發シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

一 收入計算書ハ翌年度九月二十五日以内

二 現金出納計算書ハ翌年度六月二十五日以内

第九條 下検査書ハ計算書毎ニ區分調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 計算書明細書其他證憑書類ノ件名冊數
 - 二 租稅收入計算書ハ收入簿ト現金出納計算書ハ現金出納簿ト符合及現存金ヲ認メタル保證但當該下検査官吏ニテ事實執行シ難キ場合ニ於テハ他ノ監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テスルコトヲ得
 - 三 事實ニ適合セスト認定セシ事項ノ事由金額
 - 四 證憑書類中検査終了ノ上返付ヲ要スル書類ノ件名冊數
- 第十條 收入官吏ニ對スル審理書及之ニ對スル報答書ハ總テ下検査官吏ヲ經由スヘシ

附 則

- 第十一條 明治廿七年一月一日以前ヨリ收入官吏ノ職ニ在テ引續キ分任收入官吏トナリタルモノハ總テ其計算ヲ主任收入官吏ノ計算書ニ併算シ其事由ヲ備考ニ記載スヘシ
- 第十二條 海關稅及沖繩縣租稅東京府管轄伊豆七島稅品收入ニ關スル證明規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十三條 本規程ハ明治二十六年分ヨリ施行ス

○會計検査院達第八號 二十七年三月三日

租稅外歲入調定額證明規程

- 第一條 會計規則第五十二條第二項ニ據リ歲入調定官ヨリ會計検査院ニ證明スヘキ租稅外歲入調定額計算書ハ別記書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
- 第二條 左ノ事項ハ調定額計算書ノ備考ニ記載スヘシ但事ノ複雑ニ涉ルモノハ説明書若クハ其所由ヲ確認シ得ヘキ書類ヲ添付スヘシ
 - 一 調定上ノ過誤ニシテ其下戻ヲ要スヘキモノアルトキハ其金額事由既ニ下戻ヲ了シタルモノハ其年度年月日共但數箇所ニ主任收入官吏ヲ置キタルモノハ各官吏取扱額ノ區分ヲ要ス
 - 二 調定不足ニシテ追徴ヲ要スヘキモノアルトキハ其金額事由
- 第三條 歲入調定ニ關スル證憑書類トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ

- 第一 左ノ事項ニ對シテハ其契約書但契約書ヲ要セサリシモノハ其決議書
 - 一 地所及建物ノ拂下
 - 二 見積價格貳百圓以上ノ物品拂下
 - 三 一箇年若クハ一回貸下料金五圓以上ノ地所其他ノ貸下但官舎貸下料及敷地料ハ之ヲ除ク尤官舎貸下料額ニ異動ヲ生シタルトキハ其評價書及異動ノ理由書ヲ要ス
 - 四 艦船製造修繕ノ受託
- 第二 海外電報料ニ對シテハ各郵便電信局ノ報告ニ係ル電報類別總計表
- 第四條 會計規則第八十條第八十一條ニ基キ取結ヒタル賣却又ハ貸下ニ關スル競争契約書ニハ左ノ書類ヲ添付スヘシ
 - 一 物件賣却又ハ貸下ノ理由書
 - 二 會計規則第七十四條ニ基キタル公告書但再入札ノ場合ニ於テハ前公告書共

- 三 豫定價格調書
 - 四 落札以下三番札マテ但再入札ノ場合ニ於テハ前入札最高以下三番札迄ノ分共
 - 第五條 證憑書類中既ニ他ノ計算證明上會計検査院ニ提出濟ノモノアルトキハ其事由ヲ調定額計算書ノ備考ニ掲載スヘシ
 - 第六條 證憑書類ノ編纂ハ各目ニ區分シ其枚數ヲ表記スヘシ尙ホ細別ヲ要スルモノハ適宜其區分ヲ爲スヘシ但各目ヲ合セテ簿冊ヲ成セシモノハ區分ヲ要セス
- 附 則
- 第七條 稅關雜收入書ニ關スル證明規程ハ別ニ之ヲ定ム
 - 第八條 本規程ハ明治二十六年分ヨリ施行ス

○會計検査院達第九號 二十七年三月三日
租稅外收入證明規程

第一條 會計規則第九十五條第九十七條ニ據リ收入官吏ヨリ會計検査院ニ證明スヘキ租稅外收入計算書現金出納計算書ハ別記第一號及第二號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 一會計年度中收入官吏ノ交替アリシトキ後任收入官吏ノ證明スヘキ收入計算書ニ於テハ尙ホ前任收入官吏ノ計算額ヲ併算スヘシ
前任收入官吏ヨリ提出スヘキ收入計算書中調定濟額ハ當該歲入調定官ノ保證ヲ受ケテ之ヲ提出スヘシ

身元保證金ヲ納メタル分任收入官吏交替ノトキハ特ニ其收入計算書ヲ調製シ證明ヲ爲スコトヲ得但此場合ニ在テハ主任收入官吏ヲ經由スヘシ

第三條 毎年度歲入調定濟額ノ内收入未濟ニ係ルモノアルトキハ毎件其金額事由所屬年度及督促ノ顛末等ヲ詳記セル收入未濟額明細書ヲ調製シ收入計算書ニ添付スヘシ

但事ノ複雑ナラサルモノハ計算書ノ備考ニ記載シ明細書ヲ省略スルコトヲ得

第四條 左ノ事項ハ各其計算書ノ備考ニ記載スヘシ但事ノ複雑ニ涉ルモノハ説明書若クハ其所由ヲ確認シ得ヘキ書類ヲ添付スヘシ

一 前年度ヨリ繰越ノ收入未濟額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其金額事由

二 缺損補填金ヲ受ケタルモノアルトキハ其金額事由

三 金庫へ拂込未濟ノ金額アリシトキハ其事由

第五條 現金出納證明上提出スヘキ證憑書類ハ金庫ノ領收證書トス
證憑書類ハ所屬年度ニ區分編纂シ其金員枚數ヲ表記スヘシ但枚數僅少ナルトキハ合冊ト爲スモ妨ケナシ

第六條 下検査官吏ハ計算書ノ下検査ヲ完了シ左ノ期日内ニ其廳ヲ發シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

一 收入計算書ハ翌年度九月二十五日以内

二 現金出納計算書ハ翌年度六月二十五日以内

第七條 下検査書ハ計算書毎ニ區分調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 計算書若クハ證憑書類ノ件名冊數
- 二 收入計算書ハ收入簿現金出納計算書ハ現金出納簿トノ符合及拂込未濟現存額ヲ認メタル保證但當該下検査官吏ニテ事實執行シ難キ場合ニ於テハ他ノ監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テスルコトヲ得
- 三 事實ニ適合セスト認定セシ事項ノ金額事由
- 第八條 收入官吏ニ對スル審理書及之ニ對スル報答書ハ總テ下検査官吏ヲ經由スヘシ

附 則

- 第九條 稅關雜收入ニ關スル證明規程ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十條 本規程ハ明治二十六年分ヨリ施行ス
- 第十一條 明治二十七年一月一日以前ヨリ收入官吏ノ職ニ在テ引續キ分任收入官吏トナリタルモノハ總テ其計算ヲ主任收入官吏ノ計算書ニ併算シ其事由ヲ備考ニ記載スヘシ

○會計検査院達第二號 二十四年三月九日

歲入歲出外現金出納證明規程

- 第一條 明治二十三年勅令第三十五號ニ據リ出納官吏ノ證明スヘキ歲入歲出外現金出納計算書ハ左ノ書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
- 第二條 出納證明上證憑書類トシテ提出スヘキモノ左ノ如シ
 - 一 受入金ニ對シテハ命令書又ハ決議書
 - 二 仕拂金ニ對シテハ正當受取人ノ領收證書
- 第三條 前條ノ證憑書類ハ受入仕拂ニ大別シ計算書ニ掲クル事項毎ニ區分編纂シ其表紙ニ金額ノ合計及ヒ證憑書ノ枚數ヲ記載スヘシ但一事項ノ證書僅少ナルモノハ合纂スルモ妨ナシ
- 第四條 下検査官吏ハ計算書及ヒ證憑書類ノ下検査ヲ完了シ翌年度六月二十五日以内ニ其廳ヲ發シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ
- 第五條 下検査書ハ計算書毎ニ區分調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 計算書及ヒ證憑書類ノ件名冊數

- 二 現金出納計算書ト出納帳簿及ヒ計算書ノ殘額ト現存額トノ符合ヲ認メタル保證但シ當該下検査官吏ニテ事實執行シ難キ場合ニ於テハ他ノ監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テスルコトヲ得
- 三 (二十七年七月會計検査達第二十四號ヲ以本號削除)
- 四 事實ニ適合セスト認定セシ事項ノ理由及ヒ金額(全上ヲ以本號中削除)
- 第六條 證憑書類中必要ノモノニシテ検査終了ノ上返付ヲ要スルモノアルトキハ其提出ノ際之ヲ會計検査院ニ請求スヘシ
- 第七條 歳入歳出外現金出納ノ證明ニ關スル審理書又ハ其報告書ハ總テ下検査官吏ヲ經由スヘシ

○會計検査院達第十三號 二十七年四月二十六日

沖繩縣租稅及伊豆七島稅品收入證明規程

- 第一條 會計規則ニ依リ收入官吏ヨリ會計検査院ニ證明スヘキ租稅收入計算書現金出納計算書稅品及買上砂糖出納計算書ハ別記第一號乃至第三號

書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

- 第二條 一會計年度中收入官吏ノ交替アリシトキ後任收入官吏ノ證明スヘキ租稅收入計算書ニ於テハ尙ホ前任收入官吏ノ計算額ヲ併算スヘシ
- 前任收入官吏ヨリ提出スヘキ收入計算書中調定濟額ハ當該歳入調定官ノ保證ヲ受ケテ之ヲ提出スヘシ
- 身元保證金ヲ納メタル分任收入官吏交替ノトキハ特ニ其計算書ヲ調製シ證明ヲ爲スコトヲ得但此場合ニ在テハ主任收入官吏ヲ經由スヘシ
- 第三條 租稅收入未濟ノモノアルトキハ別記第四號書式ニ依リ其明細書ヲ調製シ租稅收入計算書ニ添付スヘシ
- 第四條 左ノ事項ハ各其計算書ノ備考ニ記載スヘシ但事ノ複雑ニ涉ルモノハ説明書若クハ其所由ヲ確認シ得ヘキ書類ヲ添付スヘシ
 - 一 前年度ニ於テ證明濟ニ係ル繰越未收入額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其金額事由
 - 二 缺損補填ヲ受ケタルモノアルトキハ其金額事由

- 三 金庫へ拂込未済ニ係ル金額アルトキハ其事由
- 第五條 現金出納證明上提出スヘキ證憑書類ハ金庫ノ領收證書トス
- 第六條 税品及買上砂糖出納證明上提出スヘキ證憑書類左ノ如シ
 - 一 會計規則第八十條第八十一條ニ基キタル契約書
 - 二 會計規則第七十四條ニ基キタル公告書但再入札ノ場合ニ於テハ前公告書共
 - 三 豫定價額調書
 - 四 落札以下三番札迄但再入札ノ場合ニ於テハ前入札最高以下三番札ノ分共
 - 五 隨意契約ヲ以テ賣却シタルトキハ其契約書但契約書ヲ要セザリシモノハ其賣却ノ年月日金額及買受人ノ氏名ヲ記載セル仕譯書
 - 六 税品及買上砂糖ノ亡失毀損ニハ其品目數量見積價格及亡失毀損ニ係ル事實ヲ詳記シテ當該上官ノ認定ヲ經タル書類其既ニ辨償ニ係ルモノハ尙ホ其品目數量及辨償金額ノ仕譯書

- 七 税品及買上砂糖ノ賣却未済ニシテ翌年度へ繰越シタルモノアルトキハ其品目數量所在地及賣却未済ノ事由ヲ詳記シタル説明書
- 第七條 證憑書類ノ編纂ハ各目ニ區分シ其枚數ヲ表記スヘシ尙ホ細別ヲ要スルモノハ適宜區分ヲ爲スヘシ
- 第五條現金出納ニ關スル証憑書類ハ其所属年度ニ依リ區分シ第六條中第六項第七項ハ各別ニ之ヲ編纂スヘシ
- 第八條 下検査官吏ハ計算書ノ下検査ヲ完了シ左ノ期日内ニ其廳ヲ發シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ
 - 一 租稅收入計算書税品及買上砂糖出納計算書ハ翌年度十月廿五日以内
 - 二 現金出納計算書ハ翌年度七月二十五日以内
- 第九條 下検査書ハ計算書毎ニ區分調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 計算書若クハ證憑書類ノ件名冊數
 - 二 租稅收入計算書ハ收入簿ト現金出納計算書税品及買上砂糖出納計算書ハ各其出納簿符ト合及現存額ヲ認メタル保証但當該下検査官吏ニ

テ事實執行シ難キ場合ニ於テハ他ノ監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テスルコトヲ得

三 事實ニ適合セスト認定セシ事項ノ事由金額

第十條 收入官吏ニ發スル審理書及之ニ對スル報答書ハ總テ下検査官吏ヲ經由スヘシ

附 則

第十一條 本規程ハ明治二十六年分ヨリ施行ス

第十二條 明治二十七年一月一日以前ヨリ收入官吏ノ職ニ在テ引續キ分任收入官吏トナリタルモノハ總テ其計算ヲ主任收入官吏ノ計算書ニ併算シ其事由ヲ備考ニ記載スヘシ

○第二〇〇六號

二十四年五月廿五日大藏大臣達

二十三年度已降當省所管歲入出及物品ノ計算當該官吏ヨリ證明ニ對シ認可

北海道廳 府縣

狀交付ノ際ハ總テ當省經由ノ事ニ相定候旨會計検査院長ヨリ通知有之ニ付此旨相達ス

○大藏省訓令第四拾五號 二十六年十二月七日

北海道廳 府縣

明治二十三年當省訓令第二百二十號中會計規則第九十三條第九十五條第九十六條第九十七條及第九十九條ニ關スル事務ハ明治二十七年一月一日以降ノ取扱ニ係ル分ヨリ北海道廳長官府縣知事ニ於テ其取扱ヲ爲スヲ要セス但本年十二月三十一日以前ノ取扱ニ属スル分ニシテ明治二十七年一月以降ノ提出ニ係ルモノハ従前ノ通心得ヘシ

○大藏省訓令第四十七號 二十六年十二月七日

北海道廳 府縣

國稅ノ徵收ヲ取扱フ收入官吏ヨリ提出スル會計規則第九十五條第九十七條

第九十九條ノ計算書ハ明治二十七年一月一日以後ノ取扱ニ係ル分ヨリ下検査ヲ爲スヲ要セス北海道廳長官府縣知事ニ於テ左ノ書類ヲ添付シ當省ヘ送付スヘシ

但本年十二月三十一日以前ノ取扱ニ屬スル計算書ニシテ明治二十七年一月一日以後提出ニ係ルモノハ從前ノ通心得ヘシ

- 一 租稅收入計算書ト收入簿ト符合ヲ認メタル保證書
- 一 現金出納計算書ト現金出納簿ト符合ヲ認メタル保證書
- 一 國稅滯納處分法第五條ニ據リ直ニ缺損處分ヲ爲シタルモノハ其事實ヲ認メタル保證書

○現金出納計算書ニ證憑書類添付方ノ件 二十七年七月廿一日坤第 三四二二號主稅局長通牒

收入官吏ニ於テ證明スヘキ租稅現金出納計算書中滯納處分金内譯ニ係ル金額ハ該證明規程第六條ニ依リ證憑書類ヲ添付スヘキ筈ニ有之候間至急御取纏御送付相成候様致度

○租稅收入證明規程ニ依リ提出スル計算書ニ通貨差押ノ分掲記方

二十九年七月三日坤第八 三五六號主稅局長通牒

租稅收入證明規程ニ依リ收入官吏ノ提出スル書類中通貨差押外一件左ノ通取扱候様御取計相成度候

- 一 通貨差押ニ關スルモノハ滯納處分金明細書ヘ總テ各人別ニ掲上セシ處自今差押通貨ヲ處分費稅金ニ充テ剩餘ナキモノニ限り各人別ニ掲上スルヲ要セス候間其年度間ニ收入セシモノト年度後收入セシモノトヲ區分シ明細書凡例第六項ニ準シ其金額ノミヲ掲上證明シ差支無之候
- 一 管内甲乙分任收入官吏ノ受囑托ニ係ルモノハ主任收入官吏ノ計算額ヘ組入受託分任收入官吏ノ證憑ニハ囑托收入官吏カ金庫ヘ拂込タル領收證書ヲ提出スヘキ旨客年四月坤第一五六五號ヲ以テ及御通牒置候處右領收證書ハ他ノ領收證書ト區分シ受託分任收入官吏及其在勤廳名ノ仕譯書ヲ添付シ差出候様致度候

右及通牒候也

追テ現金出納計算書中拂込未済及其内譯拂渡未済ニ係ルモノハ二十七年十二月訓令第四十七號ニ準シ貴官ニ於テ現存金ヲ認メタル保證書ヲ調製シ御送付相成候様致度尤モ計算書ト帳簿ト符合ヲ認メタル保證書へ併記相成差支無之此段申添候也

○歳入歳出外現金出納計算ノ検査及責任解除委托方

三十年十月十八日送第一三〇一號會計検査院長ヨリ東京稅務管理局長へ委託

會計検査院ハ會計検査院法第十六條ニ據リ東京稅務管理局管内各稅務署ニ屬スル歳入歳出外現金出納計算ノ検査及責任解除ヲ明治二十九年年度以降東京稅務管理局ニ委託ス

○歳入歳出外現金出納計算ノ責任解除及検査成績報告順序

全三十年十月十八日送第一三〇二號會計検査院長ヨリ東京稅務管理局長へ委託

會計検査院法第十六條ニ據リ歳入歳出外現金出納計算ノ検査及責任解除及検査成績報告順序別紙ノ通りニ候條爲御心得此段及御通知候也

○歳入歳出外現金出納計算ノ検査及責任解除完了期限等ノ件

三十一年六月廿七日送第七九五號會計検査院長ヨリ東京稅務管理局長へ委託

從來貴局へ委託有之候計算ノ検査及責任解除ニ關スル事務ハ自今當該年度經過後一ケ年以内ニ之ヲ完了シ検査成績報告順序所定ノ期限内ニ該報告書提出相成候様致度此段及御通牒候也

追テ事故ノ爲メ本文期限内ニ認可狀ノ交付ヲ了スル能ハサルモノアルトキハ別紙書式ニ準シ認可狀交付未済ノ事由ヲ詳記シ検査成績報告書中ニ掲載相成度候

明治何年度歳入歳出外現金出納(在監人所持品又ハ何々)ノ計算認可未済調

證明應出納官吏管理期	金額		事由
	受高	拂高殘高	
何々何某			何々ノ事項ニ對シ未タ答辯ナキヲ以テ認可狀交付未濟
何々何某			何々ニ係ル證憑書未タ提出ナキヲ以テ認可狀交付未濟
何々何某			何々ノ事情ニ依リ未タ計算ノ證明ナシ

物品ニ係ル表ハ出納官吏ノ欄ヲ會計官吏ト改メ而シテ金額ノ欄ヲ删除スヘシ

○現金拂込領收證書紛失ノ場合領收濟通知書ヲ以テ換用ノ件

三十一年五月七日東京稅務管理局長照會

明治二十七年三月三日御院達第九號租稅外收入證明規程第五條ニ依ル金庫ヲ領收證書ニシテ主任官吏保管中紛失シタル場合ニ於テハ當該金庫ヨリ發

シタル領收濟通知書ヲ以テ右領收書ニ換用シ差支無之哉

會計検査院長回答、三十一年五月十一日 送第五四〇號

御來意ノ通ニテ可然被存候

○歳入歳出外現金寄托シタルモノ、計算書証明上ノ件 二十八年五月廿五日長崎縣照會

出納官吏ニ於テ保管物品取扱規程ニ依リ現金ニ送付書ヲ添ヘ金庫ニ寄托シ保管中ノモノハ歳入歳出外現金出納證明規程ニ依リ調製スヘキ現金出納計算書中殘高ノ欄ニ掲記シ現存高トシテ證明セシ處本年大藏省訓令第二十號ニテ現金ニ送付書ヲ添ヘ金庫ニ寄托スルトキハ現金出納簿拂ノ欄ニ登記スヘキコトニ成リタリ就テハ右計算書モ亦仕拂ニ立テ寄托金ニ對スル金庫ノ領收證書ヲ以テ之ヲ證明シ然ルヘキヤ

會計検査院長回答 二十八年六月五日

御意見ノ通

○現金出納計算書ニ滞納處分ノ計算書添付方 二十八五年七月七日坤第一
九〇九號主稅局長照會
租稅現金出納計算書下検査上必要ノ義有之自今左ノ書類ヲ添付シ提出候様
御取計相成度豫テ此段及御照會候也
一 滞納處分剩餘金ヲ債主又ハ滞納者へ交付セシモノハ滞納處分法施行細
則第十二條計算書ノ謄本

○計算書表紙記入方 三十一年十月廿六日官報

會計検査院へ證明ノタメ提出スル計算書ニ屬スル證憑書類ニ添付スヘキ目
録書ハ自今省略シ其計算書表紙ニ左記雛形ノ通記入スルコトニ改メタリ

年 度	何 々	何 計 算 書	證 憑 書 何 冊	何 々	ク	何 々	ク	名 應
		(記入雛形)						

○官吏遺族扶助法納金調定額證明方

三十一年十一月十一日
東京稅務管理局長照會

官吏遺族法扶助法納金調定額ハ明治廿七年^三會計検査院達第八號租稅外歲
入調定額證明規程ノ様式ニ依リ一人別ニ證明シ來リタル處右ハ官吏遺族扶
助法納金收入規則ニ依リ俸給仕拂ノトキ一定ノ金額ヲ金庫ニ於テ差引キ之
ヲ歲入ニ振替ユルヲ以テ其俸給總額ニ據リ調定額ヲ知ルニ足レリ然ルニ數
百人分ニ對シ一人別證明ヲ爲スカ如キハ實際煩累ニ堪ヘサルニ付自今別紙
振合ニ依リ證明スルコト、セハ所謂簡ニシテ要ヲ得ル義ト被考候條右ニテ
御差支無之候哉

(別紙)

考 考	備 考
貳厘乘算不足	

官吏遺族助扶法納金

摘要	調定濟額	
	円	銭厘
奏任	5.000	000
判任	14.587	967
合計	19.587	967

會計検査院部長回答 三十二年一月十六日 送第三三號
 差支無之候

第五章 官制 官等俸給

○勅令第二百六十九號 三十一年十月二十二日

大藏省官制

- 第一條 大藏大臣ハ政府ノ財務ヲ總轄シ會計出納租稅國債貨幣預金保管物及銀行ニ關スル事務ヲ管理シ府縣郡市町村及公共組合ノ財務ヲ監督ス
- 第二條 大藏省專任參事官ハ二人專任書記官ハ十人ヲ以テ定員トス
- 第三條 大藏省ニ左ノ三局ヲ置ク

主計局

主稅局

理財局

第四條 主計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 總豫算總決算ニ關スル事項
- 二 特別會計ノ豫算決算ニ關スル事項

- 三 仕拂豫算ニ關スル事項
 - 四 主計簿ノ登記ニ關スル事項
 - 五 歳入歳出現計書ノ調製ニ關スル事項
 - 六 諸計算書ノ下検査ニ關スル事項
 - 七 出納官吏ノ監督及身元保証ニ關スル事項
 - 八 豫備金支出ニ關スル事項
 - 九 定額繰越ノ承認及定額戻入年度開始前支出ニ關スル事項
 - 十 收入支出ノ科目ニ關スル事項
 - 十一 金錢及物品會計ノ統一ニ關スル事項
 - 十二 府縣郡市町村其ノ他公共組合ノ歳計ニ關スル事項
- 第五條 主税局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 國稅ノ賦課徵收ニ關スル事項
 - 二 稅務ノ管理監督ニ關スル事項
 - 三 民有地地種目變換ニ關スル事項

- 四 土地臺帳ニ關スル事項
 - 五 稅關輸出輸入ノ調査ニ關スル事項
 - 六 外國貿易ノ船舶及輸出入品ノ監督ニ關スル事項
 - 七 保稅倉庫ニ關スル事項
 - 八 大藏省所管稅外諸收入ニ關スル事項
 - 九 府縣郡市町村其ノ他公共組合ノ諸收入ニ關スル事項
- 第六條 理財局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 國資ノ運用出納ニ關スル事項
 - 二 國庫ノ出納管理ニ關スル事項
 - 三 國庫ノ出納計算書ニ關スル事項
 - 四 國債ノ募集借入償還及利拂ニ關スル事項
 - 五 國債簿及國庫簿ノ登記ニ關スル事項
 - 六 貨幣ニ關スル事項
 - 七 紙幣國債證券大藏省證券及借入證書ノ取扱ニ關スル事項

- 八 國債計算書ノ調製ニ關スル事項
- 九 年金恩給及諸祿ノ給與ニ關スル事項
- 十 備荒儲蓄ニ關スル事項
- 十一 金庫ノ監督ニ關スル事項
- 十二 銀行ノ監理監督ニ關スル事項
- 十三 國立銀行紙幣交換基金ニ關スル事項
- 十四 預金保管物及供託物ニ關スル事項
- 十五 地方財務ノ監督ニ關スル事項
- 十六 會社債券ニ關スル事項
- 十七 一般金融ニ關スル事項
- 十八 府縣郡市町村其ノ他公共組合ノ公債ニ關スル事項
- 第七條 大藏省ニ專任鑑定官二人技師一人ヲ置ク奏任トス鑑定官ハ主稅局ニ技師ハ必要ニ依リ官房其ノ他ニ屬シ其ノ事務ヲ掌ル
- 第八條 大藏省ニ鑑定官補技手各二人ヲ置ク判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ鑑

定建築ニ關スル事務ニ從事ス

第九條 大藏省屬ハ二百四十人ヲ以テ定員トス

附 則

第十條 本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

明治二十七年勅令第九十八號ハ廢止ス

○勅令第三百三十七條 二十九年十月二十日

稅務管理局官制

第一條 稅務管理局ハ大藏大臣ノ管轄ニ屬シ内國稅ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 稅務管理局ノ名稱位置及管轄區域ハ別表ニ依ル

第三條 稅務管理局管轄須要ノ地ニ稅務署ヲ置ク其位置及管轄區域ハ別ニ

勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條 稅務管理局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長

司稅官

稅務屬 (三十一年十月二十二日勅令第
三百七十二號ヲ以テ本條改正)

技手 (三十二年二月勅令第
三十四號ヲ以テ本項追加)

第五條 局長ハ奏任トス大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ稅務ニ關スル法律命令

ヲ執行シ其管轄内ノ事務ヲ管理ス (三十一年十月二十二日勅令第
三百七十二號ヲ以テ本條改正)

第六條 局長ハ所部ノ官吏ヲ監督シ判任官ノ任免ヲ大藏大臣ニ具狀ス (三十
三月二十八日勅令第
七十四號ヲ以テ本條改正)

第七條 (三十一年十月二十二日勅令第
三百七十二號ヲ以テ本條削除)

第八條 司稅官ハ奏任トシ各局各署ヲ通シテ百人ヲ以テ定員トス第十條ニ

依リ署長タル者ノ外各局ニ分屬シ局長ハ指揮ヲ承ケ稅務ノ監督ニ從事ス

第九條 稅務屬及技手ハ判任トシ稅務屬ハ五千八百十九人技手ハ三百七十

五人ヲ以テ定員トス稅務屬及技手ハ稅務管理局若クハ稅務署ニ分屬シ稅

務屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務及檢査ニ從事シ技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ酒

類ノ鑑定其他技術ニ關スル事務ニ從事ス (三十二年三月二十八日勅令
第七十四號ヲ以テ本條改正)

第十條 各稅務署ニ署長一人ヲ置キ司稅官若クハ稅務屬ヲ以テ之ニ充ツ

稅務署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ其署ノ主管ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ監

督ス

附則

第十一條 本令ハ明治二十九年十一月一日ヨリ施行ス但北海道ハ明治三十

年四月一日ヨリ施行ス

明治二十六年勅令第百二十二號各省官制通則及同年勅令第百六十二號地

方官、官制中收稅長收稅屬收稅部收稅署ニ係ル條項ハ本令施行ノ日ヨリ

廢止ス

○勅令第三百四十六號 二十九年十月二十日

稅務管理局稅務署及管轄區域別表ノ通定

附則

三九九

本令ハ明治二十九年勅令第三百三十七號實施ノ日ヨリ施行ス
 明治二十六年勅令第六十四號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

(別表)

稅務管理局稅務署及管轄區域表

稅務管理局名	廳府縣	稅務署名	管轄區域
函館	函館區	函館	函館區 龜田郡 上磯郡 茅部郡
松前	松前郡	松前	松前郡
檜山	檜山郡 爾志郡 久遠郡 奧尻郡	檜山	檜山郡 爾志郡 久遠郡 奧尻郡
壽都	壽都郡 鳥牧郡 歌棄郡 磯谷郡	壽都	壽都郡 鳥牧郡 歌棄郡 磯谷郡
小樽	小樽郡 高嶋郡 忍路郡 余市郡	小樽	小樽郡 高嶋郡 忍路郡 余市郡
古平	古平郡 美國郡 積丹郡	古平	古平郡 美國郡 積丹郡

札	幌	根
岩内郡 古宇郡	宗谷郡 枝幸郡 利尻郡 禮文郡	釧路郡 廣尾郡 當緣郡 十勝郡
札幌區 札幌郡 千歲郡 石狩郡	室蘭郡 有珠郡 虻田郡 幌別郡	網走郡 斜里郡 常呂郡 紋別郡
空知郡 夕張郡 雨龍郡 上川郡	浦河郡 沙流郡 新冠郡 靜内郡	釧路郡 廣尾郡 當緣郡 十勝郡
增毛郡 留萌郡 苫前郡 天鹽郡	浦河郡 沙流郡 新冠郡 靜内郡	釧路郡 廣尾郡 當緣郡 十勝郡
增毛郡 留萌郡 苫前郡 天鹽郡	浦河郡 沙流郡 新冠郡 靜内郡	釧路郡 廣尾郡 當緣郡 十勝郡
空知郡 夕張郡 雨龍郡 上川郡	浦河郡 沙流郡 新冠郡 靜内郡	釧路郡 廣尾郡 當緣郡 十勝郡
宗谷郡 枝幸郡 利尻郡 禮文郡	浦河郡 沙流郡 新冠郡 靜内郡	釧路郡 廣尾郡 當緣郡 十勝郡
室蘭郡 有珠郡 虻田郡 幌別郡	浦河郡 沙流郡 新冠郡 靜内郡	釧路郡 廣尾郡 當緣郡 十勝郡
浦河郡 沙流郡 新冠郡 靜内郡	浦河郡 沙流郡 新冠郡 靜内郡	釧路郡 廣尾郡 當緣郡 十勝郡
網走郡 斜里郡 常呂郡 紋別郡	浦河郡 沙流郡 新冠郡 靜内郡	釧路郡 廣尾郡 當緣郡 十勝郡
釧路郡 廣尾郡 當緣郡 十勝郡	浦河郡 沙流郡 新冠郡 靜内郡	釧路郡 廣尾郡 當緣郡 十勝郡

東									
埼			京						
大宮	松山	川越	浦和	府中	八王子	青梅	小松川	千住	板橋
秩父郡	比企郡	入間郡	北足立郡	北多摩郡	南多摩郡	西多摩郡	南葛飾郡	南足立郡	北豊島郡

東							室	
道							室	
淀橋	品川	麻橋	新大橋	萬世橋	四谷	幸橋	紗那	根室
豊多摩郡	荏原郡	淺草區 下谷區 本所區	日本橋區 深川區	小石川區 本郷區 神田區	麴町區 牛込區 四谷區 赤坂區	京橋區 小笠原島 芝區 麻布區 伊豆七嶋	紗那郡 振別郡 擇捉郡 藥取郡	根室郡 花咲郡 野付郡 標津郡 新梨郡 國後郡 色丹郡 得撫郡 占守郡

京

群					葉				
安中	富岡	藤岡	高崎	前橋	北條	木更津	大多喜	茂原	東金
碓氷郡	北甘樂郡	多野郡	群馬郡	前橋市 勢多郡	安房郡 平郡 朝夷郡 長狹郡	望陀郡 周准郡 天羽郡	夷隅郡	長柄郡 上埴生郡	山邊郡 武射郡

千

玉

銚子	佐原	佐倉	松戸	千葉	杉戸	岩槻	忍	熊谷	本庄
海上郡 匝瑳郡	香取郡	印旛郡 南相馬郡 下埴生郡	東葛飾郡	千葉郡 市原郡	北葛飾郡	南埼玉郡	北埼玉郡	大里郡	兒玉郡

								京
								都
草津	大津	峯山	宮津	舞鶴	綾部	福知山	園部	龜岡
栗太郡 野洲郡	大津市 滋賀郡	中郡 竹野郡 熊野郡	與謝郡	加佐郡	何鹿郡	天田郡	船井郡	南桑田郡

										京
					馬					
木津	伏見	下京	上京	伊勢崎	館林	桐生	太田	沼田	中ノ條	
相樂郡 綴喜郡	乙訓郡 紀伊郡 宇治郡 久世郡	下京區 葛野郡	上京區 愛宕郡	佐波郡	邑樂郡	山田郡	新田郡	利根郡	吾妻郡	

大									
奈	阪								
三輪	奈良	枚方	八尾	富田	岸和田	堺	茨木	池田	天王子
式上郡	奈良市 廣瀬郡	北河内郡	中河内郡	南河内郡	泉南郡	堺市 泉北郡	三嶋郡	豊能郡	東成郡
式下郡	添上郡 平群郡								
十市郡	添下郡 山邊郡								

都									
大	賀							滋	
上福島	中ノ島	船場	今津	木ノ本	長濱	彦根	愛知川	八幡	水口
西成郡	西區 北區	南區 東區	高島郡	伊香郡 西淺井郡	阪田郡 東淺井郡	犬上郡	神崎郡 愛知郡	蒲生郡	甲賀郡

大阪

山歌和					良				
田	御	湯	橋	岩	和	上	五	御	松
玉邊	坊	淺	本	出	歌山	市	條	所	山
西牟婁郡	日高郡	有田郡	伊都郡	那賀郡	和歌山市 海草郡	吉野郡	宇智郡	高市郡 葛上郡 葛下郡 忍海郡	宇陀郡

神奈川

神奈川								新
中	厚	小	松	大	藤	横	神	横
野	木	田	田	磯	澤	須	奈	濱
津久井郡	愛甲郡	足柄下郡	足柄上郡	中郡	高座郡 鎌倉郡	三浦郡	橋樹郡 都筑郡	横濱市 久良岐郡

神									
兵									
社	三	明	三	伊	西	神	氣	濱	見
	木	石	田	丹	宮	戸	賀	松	付
加東郡	美嚢郡	明石郡	有馬郡	川邊郡	武庫郡ノ内 山田村須磨 村ヲ除ク	神戸市 武庫郡ノ内 山田村 須磨村	引佐郡	濱名郡	磐田郡

濱									
岡									
静									
森	掛	静	藤	静	江	吉	沼	三	下
	川	波	枝	岡	尻	原	津	島	田
周知郡	小笠郡	榛原郡	志太郡	静岡市 安倍郡	庵原郡	富士郡	駿東郡	田方郡	賀茂郡

長		戸							
長		庫							
諫	太	長	市	洲	篠	柏	村	和	出
早	村	崎	三	本	山	原	岡	田	石
北高來郡	東彼杵郡	長崎市 西彼杵郡	三原郡	津名郡	多紀郡	永正郡	美方郡	養父郡 朝來郡	出石郡

長									戸	
長									庫	
豐	山	佐	赤	龍	田	姬	加	北	中	
岡	崎	用	穂	野	原	路	古	條	村	
城崎郡	安栗郡	佐用郡	赤穂郡	揖保郡	神崎郡	姫路市 飾磨郡	加古郡 印南郡	加西郡	多可郡	

新									
新							賀		
與	津	三	卷	新	新	新	鹿	武	伊
板	川	條		津	發	潟	嶋	雄	萬
三島郡	東蒲原郡	南蒲原郡	西蒲原郡	中蒲原郡	北蒲原郡	新潟市	藤津郡	杵島郡	西松浦郡

崎										長									
佐					崎														
唐	小	轟	神	佐	嚴	武	福	平	島										
津	田	木	崎	賀	原	生水	江	戶	原										
東松浦郡	小城郡	三養基郡	神崎郡	佐賀市 佐賀郡	上縣郡 下縣郡	壹岐郡	南松浦郡	北松浦郡	南高來郡										

都									
字									
木									
朽									
笠	水	大	矢	真	宇	鹿	朽	佐	足
間	戸	田	板	岡	都	沼	木	野	利
西茨城郡	水戸市 東茨城郡	那須郡	鹽谷郡	芳賀郡	宇都宮市 河内郡	上都賀郡	下都賀郡	安蘇郡	足利郡

瀉									
瀉									
相	村	糸	高	安	柏	十	六	小	長
川	上	魚	田	塚	崎	日	日	千	岡
佐渡郡	岩船郡	西頸城郡	中頸城郡	東頸城郡	刈羽郡	中魚沼郡	南魚沼郡	北魚沼郡	古志郡

名									
愛									
半田	津島	稻澤	小折	西枇杷島	勝川	熱田	名古屋	取手	境
知多郡	海東郡 海西郡	中島郡	丹羽郡 葉栗郡	西春日井郡	東春日井郡	愛知郡	名古屋市	北相馬郡	猿島郡

宮									
茨									
宗道	下館	江戸崎	谷田部	土浦	麻生	鉾田	松原	太田	菅谷
結城郡	眞壁郡	稻敷郡	筑波郡	新治郡	行方郡	鹿島郡	多賀郡	久慈郡	那珂郡

三

宇治山田	相可	松坂	久居	津市	白子	龜山	四日市	大泉原	桑名
度會郡	多氣郡	飯南郡	一志郡	津市 安濃郡	河藝郡	鈴鹿郡	四日市市 三重郡	員辨郡	桑名郡

知

富岡	豊橋	御油	新城	田口	足助	舉母	岡崎	西尾	知立
八名郡	渥美郡	寶飯郡	南設樂郡	北設樂郡	東加茂郡	西加茂郡	額田郡	幡豆郡	碧海郡

古

岐				重					
大垣	高田	高須	笠松	岐阜	木本	尾鷲	鳥羽	名張	上野
安八郡	多藝郡 上石津郡	海西郡 下石津郡	羽栗郡 中島郡	岐阜市 山縣郡 厚見郡 各務郡 方縣郡	南牟婁郡	北牟婁郡	志摩郡	名賀郡	阿山郡

屋

阜									
高山	中津川	土岐津	御嵩	太田	八幡	上有知	北方	揖斐	垂井
大野郡 益田郡 吉城郡	惠那郡	土岐郡	可兒郡	加茂郡	郡上郡	武儀郡	本巢郡 席田郡	大野郡 池田郡	不破郡

山					野				
鵜澤	石和	日下部	甲府市 西山梨郡	飯山	長野市 上水内郡	中野	須坂	埴科郡	鹽崎
南巨摩郡 西八代郡	東八代郡	東山梨郡		下水内郡		下高井郡	上高井郡	埴科郡	更級郡

松									
長									
大町	豊科	松本	福嶋	飯田	伊那	上諏訪	上田	岩村田	白田
北安曇郡	南安曇郡	東筑摩郡	西筑摩郡	下伊那郡	上伊那郡	諏訪郡	小縣郡	北佐久郡	南佐久郡

巖					城				
盛	一	水	花	盛	角	大	石	本	佐
	關	澤	卷	岡	田	河原	卷	吉	沼
氣仙郡	西磐井郡 東磐井郡	膽澤郡 江刺郡	稗貫郡 東和賀郡 西和賀郡	盛岡市 南巖手郡 北巖手郡 紫波郡	伊具郡 亘理郡	柴田郡 刈田郡	牡鹿郡 桃生郡	本吉郡	登米郡

仙					本				
宮					梨				
築	涌	古	吉	長	仙	猿	谷	韭	龍
館	谷	川	岡	町	臺	橋	村	崎	王
栗原郡	遠田郡	志田郡 玉造郡	黒川郡 加美郡	名取郡	仙臺市 宮城郡	北都留郡	南都留郡	北巨摩郡	中巨摩郡

郡									
福					形				
須賀川	郡山	二本松	桑折	福島	米澤	長井	高畑	酒田	鶴岡
岩瀬郡	安積郡	安達郡	伊達郡	信夫郡	米澤市 南置賜郡	西置賜郡	東置賜郡	飽海郡	西田川郡

臺									
山					手				
藤島	新庄	楯岡	寒河江	天童	山形	福岡	久慈	宮古	遠野
東田川郡	最上郡	北村山郡	西村山郡	東村山郡	山形市 南村山郡	二戸郡	南九戸郡 北九戸郡	東閉伊郡 中閉伊郡 北閉伊郡	西閉伊郡 南閉伊郡

森		青							
森		青							
八戸	田名部	七戸	五所川原	黒石	弘前	鱒ヶ澤	青森	中村	富岡
三戸郡	下北郡	上北郡	北津輕郡	南津輕郡	弘前市 中津輕郡	西津輕郡	青森市 東津輕郡	相馬郡	雙葉郡

山									
島									
平	三	石	白	棚	高	阪	喜	若	田
	春	川	河	倉	田	下	多	松	島
石城郡	田村郡	石川郡	西白河郡	東白川郡	大沼郡	河沼郡	耶摩郡	若松市 北會津郡	南會津郡

金									
	川					石			
三	福	飯	輪	七	羽	津	金	松	小
國	井	田	島	尾	咋	幡	澤	任	松
阪井郡	福井市 足羽郡 吉田郡	珠洲郡	鳳至郡	鹿島郡	羽咋郡	河北郡	金澤市 上野市	石川郡	能美郡

	田								秋	
	田								秋	
大	花	湯	横	大	本	鷹	能	土	秋	
聖	輪	澤	手	曲	庄	巢	代	崎	田	
寺	鹿角郡	雄勝郡	平鹿郡	仙北郡	由利郡	北秋田郡	山本郡	南秋田郡	秋田市 河邊郡	
江沼郡										

松									
嶋					山				
掛	今	大	廣	松	井	石	氷	高	八
合	市	東	瀨	江	波	動	見	岡	尾
飯石郡	鏡川郡	仁多郡 大原郡	能義郡	松江市 八束郡	東礪波郡	西礪波郡	氷見郡	高岡市 射水郡	婦負郡

澤									
富			井				福		
魚	上	富	高	雲	三	敦	朝	武	大
津	市	山	濱	濱	方	賀	旧	生	野
下新川郡	中新川郡	富山市 上新川郡	大飯郡	遠敷郡	三方郡	敦賀郡	丹生郡	南條郡 今立郡	大野郡

廣									
廣								取	
尾道	忠海	西條	吉田	可部	廿日市	吳	廣島	三	米子
尾道市	豐田郡	加茂郡	高田郡	安佐郡	佐伯郡	安藝郡	廣島市	日野郡	西伯郡
御調郡				山縣郡					
世羅郡									

江									
鳥					根				
倉吉	吉岡	郡家	鳥取	西郷	津和野	益田	濱田	川本	大森
東伯郡	氣高郡	八頭郡	鳥取市	周吉郡	鹿足郡	美濃郡	那賀郡	邑智郡	邇摩郡
			岩美郡	穩地郡					安濃郡
				海士郡					
				知夫郡					

山		山		山		山		山		山	
弓	英	勝	津	久	新	高	總	笠	玉		
削	田	間	山	田	見	梁	社	岡	嶋		
久米南條郡	英田郡	勝南郡	西北條郡	大庭郡	香多郡	上房郡	下道郡	小田郡	淺口郡		
久米北條郡	吉野郡	勝北郡	西南條郡	真島郡	阿賀郡	川上郡	賀陽郡	後月郡			

山		岡		岡		島		島		島	
倉	味	西	本	金	岡	庄	三	府	福		
敷	野	大	庄	川	山	原	次	中	山		
都守郡	兒島郡	邑久郡	和氣郡	津高郡	岡山市	比婆郡	雙三郡	蘆品郡	深安郡		
窪屋郡		上道郡	磐梨郡	赤阪郡	御野郡			神石郡	沼隈郡		
								甲奴郡			

福										本											
大野	甘木	飯塚	直方	蘆屋	東郷	福岡	町山口	入吉	佐敷	筑紫郡	朝倉郡	嘉穂郡	鞍手郡	遠賀郡	宗像郡	福岡市	早良郡	粕屋郡	天草郡	球磨郡	葦北郡

熊										媛												
八代	御船	宮地	山鹿	隈府	高瀬	宇佐	熊本	宇和島	卯	八代郡	土益城郡	下益城郡	阿蘇郡	鹿本郡	菊池郡	玉名郡	宇佐郡	熊本市	飽託郡	南宇和郡	北宇和郡	東宇和郡

本

國

大

屋

森	竹	三	佐	白	大	國	圭	八
田	田	重	伯	梓	分	東	津	常
玖珠郡	直入郡	大野郡	南海部郡	北海部郡	大分郡	東國東郡	西國東郡	築上郡

本

岡

縣

行	香	小	福	三	下	大	久	吉	前
橋	春	山	島	池	瀨	川	留	井	原
京都郡	田川郡	閃司市 企救郡	八女郡	三池郡	山門郡	三潞郡	久留米市 三井郡	浮羽郡	糸島郡

島 兒									
宮					島				
高	高	小	都	飫	宮	大	種	鹿	岩
鍋	岡	林	城	肥	崎	嶋	子	屋	川
兒湯郡	東諸縣郡	西諸縣郡	北諸縣郡	南那珂郡	宮崎郡	大島郡	熊毛郡	肝屬郡	贈吹郡

鹿							分		
兒			鹿				分		
加	大	出	隈	伊	知	鹿	四	中	豆
治	口	水	ノ	集	覽	兒	日	津	田
末	伊	出	城	院	覽	嶋	市	下	日
給	佐	水	薩	日	揖	鹿	宇	毛	田
良	郡	郡	摩	置	宿	兒	佐	郡	郡
郡			郡	郡	郡	嶋	郡		
					川	市			
					邊	鹿			
					郡	兒			
						嶋			
						郡			

- 四 官報ノ報告ニ關スルコト
- 五 外國文書ノ翻譯ニ關スルコト
- 六 公文書類ノ外國語翻譯ニ關スルコト
- 七 年報書及本省事務統計ノ調製ニ關スルコト
- 八 本省各局課ニ屬セサル庶務ニ關スルコト

第五條 第四課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算及會計ニ關スルコト
- 二 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スルコト
- 三 本省所管出納官吏ノ身元保證ニ關スルコト
- 四 印紙類ノ出納保管ニ關スルコト
- 五 本省所管造營物ノ監督ニ關スルコト
- 六 省中取締ニ關スルコト

主計局分課規程

第一條 主計局ニ豫算決算課、司計課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第二條 豫算決算課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 總豫算總決算ニ關スルコト
- 二 特別會計ノ豫算決算ニ關スルコト
- 三 豫備金ノ支出ニ關スルコト
- 四 收入支出ノ科目ニ關スルコト
- 五 會計ノ規定ニ關スルコト
- 六 物品會計ニ關スルコト
- 七 出納官吏ノ監督及身元保證金ニ關スルコト
- 八 府縣郡市町村其他公共組合ノ歲計及補助金ニ關スルコト

第三條 司計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 仕拂豫算ニ關スルコト
- 二 定額繰越過年度支出定額戻入及年度開始前支出ニ關スルコト
- 三 主計簿ノ登記ニ關スルコト
- 四 歲入歲出現計書調製ニ關スルコト

五 諸計算書ノ下検査ニ關スルコト

主稅局分課規程

第三條 主稅局ニ内國稅課、關稅課、經理課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第二條 内國稅課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 内國稅ノ賦課ニ關スルコト

二 内國稅務ノ管理監督ニ關スルコト

三 民有地々種目變換ニ關スルコト

四 土地臺帳ニ關スルコト

五 間接國稅犯則者處分ニ關スルコト

六 府縣郡市町村其他公共組合ノ諸收入ニ關スルコト

第三條 關稅課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 關稅及稅關諸收入ノ賦課ニ關スルコト

二 關稅事務ノ管理監督ニ關スルコト

三 外國貿易ノ船舶及輸出入品ノ監督ニ關スルコト

四 官私設保稅倉庫及稅關倉庫ノ管理監督ニ關スルコト

五 外國貿易ノ狀況調査ニ關スルコト

六 從量稅率ノ調査ニ關スルコト

七 輸入品原價ノ換算ニ適用スル内外國貨幣比較表ニ關スルコト

八 萬國同盟關稅誌ニ關スルコト

第四條 經理課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 國稅其他諸收入豫算決算ノ調査ニ關スルコト

二 租稅ノ徵收ニ關スルコト

三 大藏省所管稅外諸收入ニ關スルコト

四 諸貸附金及勸業資本貸附金ニ關スルコト

五 内國稅徵收費稅關經費稅務管理局及稅關營繕費ノ調査及配賦ニ關スルコト

六 内國稅徵收費稅關經費ノ經理上特殊ノ支給方法ニ關スルコト

七 内國稅徵收費稅關經費稅務管理局及稅關營繕費ノ支出計算書ノ調査

ニ關スルコト

理財局分課規程

第一條 理財局ニ國庫課、國債課、銀行課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第二條 國庫課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 國資ノ運用及出納管理ニ關スルコト
- 二 金庫ノ監督ニ關スルコト
- 三 國庫ノ出納管理ニ關スルコト
- 四 國庫簿ノ登記ニ關スルコト
- 五 國庫ノ出納計算書ニ關スルコト
- 六 預金保管物及供託物ニ關スルコト
- 七 償金特別資金ニ關スルコト
- 八 貨幣ニ關スルコト
- 九 金融ニ關スルコト

第三條 國債課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 國債ノ募集借入及償還ニ關スルコト

二 國債簿ノ登記ニ關スルコト

三 紙幣國債證券大藏省證券及借入證書ノ出納整理ニ關スルコト

四 國債計算書ノ調製ニ關スルコト

五 國債元利金國債取扱手数料紙幣交換基金整理公債金ノ仕拂ニ關スル

六 年金恩給及諸祿ノ給與ニ關スルコト

七 備荒儲蓄金ニ關スルコト

八 中央備荒儲蓄金收支ニ關スルコト

九 國立銀行紙幣交換基金ニ關スルコト

十 府縣郡市町村其他公共組合ノ公債ニ關スルコト

十一 地方財務ノ監督ニ關スルコト

第四條 銀行課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 日本銀行及兌換銀行券ニ關スルコト

- 二 橫濱正金銀行ニ關スルコト
- 三 臺灣銀行ニ關スルコト
- 四 日本勸業銀行及其補助金ニ關スルコト
- 五 農工銀行及其補助金ニ關スルコト
- 六 勸業債券農工債券其他會社債券ニ關スルコト
- 七 國立銀行及其紙幣ノ處分ニ關スルコト
- 八 私立銀行及貯蓄銀行ニ關スルコト

○官職第二六七號 二十九年十一月一日

稅務管理局

稅務管理局分課規程

第一條 稅務管理局ニ直稅課間稅課庶務課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム(三十

十一月二日職乙第一一五
六號ヲ以テ本條中削除)

第三條 直稅課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 直稅ノ賦課及ヒ免除ニ關スル事項
- 二 直稅事務ノ整理監督ニ關スル事項
- 三 民有地地種目變換ニ關スル事項
- 四 土地臺帳及地圖ニ關スル事項

第三條 間稅課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 間稅ノ賦課及免除ニ關スル事項
- 二 間稅事務ノ整理監督ニ關スル事項
- 三 間接國稅犯則者處分ニ關スル事項
- 四 登錄稅ニ關スル事項

第四條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル(卅一年十一月二日職乙第一一五六號ヲ以テ第四條削除第五條ヲ第四條トス)

- 一 機密事務ニ關スル事項
- 二 職員ニ關スル事項
- 三 印紙類ノ出納保管ニ關スル事項

- 四 公文書類ノ接受發送ニ關スル事項
- 五 公文ノ淨書ニ關スル事項
- 六 公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項
- 七 他課ニ屬セサル事項
- 八 内國稅徵收費要求及ヒ配賦ニ關スル事項
- 九 本局及ヒ稅務署ノ經費豫算決算並ニ會計ニ關スル事項
- 十 收入官吏及ヒ印紙類會計官吏身元保證金ニ關スル事項
- 十一 官報ノ報告ニ關スル事項
- 十二 統計報告ノ調製ニ關スル事項
- 十三 物品ノ保管出納及所要物品ニ關スル事項
- 十四 國稅ノ徵收ニ關スル事項
- 十五 徵收事務ノ整理監督ニ關スル事項
- 十六 國稅滯納處分ニ關スル事項
- 十七 國稅收入ノ概算及ヒ決算ニ關スル事項

十八 國稅ノ拂戻シ及ヒ誤納下戻ニ關スル事項(三十一年職乙第一一五六號ヲ以テ十四項ヨリ十八項迄追加)

十九 局中取締ニ關スル事項(三十一年十一月二日職乙第一一五六號ヲ以テ十四項ヲ十九項ト改ム)

○勅令第五十五號 三十二年三月二十日

- 第一條 酒類ノ鑑定事務ヲ練習セシムル爲稅務管理局ニ見習員ヲ置クコトヲ得
- 見習員ノ數ハ各稅務管理局ヲ通シテ百五十人ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第二條 見習員ハ高等小學校ヲ卒業シ又ハ尋常中學校二年以上ノ課程ヲ修メタル者及之ト同等以上ノ學科ヲ修メタル者ヨリ之ヲ採用ス
- 第三條 二箇年以上見習員トシテ勤續シタル者ハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ稅務管理局ノ技手ニ任用スルコトヲ得
- 第四條 見習員ニハ月額十五圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附 則

第五條 本令施行ノ後二箇年間ハ本令第三條ノ年限ニ拘ラス見習員ヨリ技

手任用スルコトヲ得

○勅令第九十六號 二十五年十一月十二日
高等官官等俸給令

官等及叙任

第一條 親任式ヲ以テ叙任スル官ヲ除ク外高等官ヲ分テ九等トス親任式ヲ以テ叙任スル官及一等官二等官ヲ勅任官トシ三等官乃至九等官ヲ奏任官トス

第二條 勅任官中親任式ヲ以テ叙任スル官ノ辭令書ハ親署ノ後御璽ヲ鈴シ内閣總理大臣又ハ首座ノ大臣之ニ副署ス

第三條 親任式ヲ以テ叙任スル官ヲ除キ其他ノ勅任官ノ辭令書ハ御璽ヲ鈴シ内閣總理大臣之ヲ奉行ス

第四條 奏任官ノ任官及叙等ハ内閣總理大臣之ヲ奏薦シ其各省及各省所属ノ官廳ニ属スルモノハ内閣總理大臣ヲ經由シテ主任大臣之ヲ奏薦ス

第五條 奏任官ノ辭令書ハ内閣ノ印ヲ鈴シ内閣總理大臣之ヲ宣行ス

第六條 高等官官等ハ別ニ定ムルモノヲ除ク外本令中ノ文武高等官々等表ニ依ル

官制上他ノ官ニ在ル者ヲ以テ兼任セシメ又ハ之ニ充ツルノ官ニシテ別ニ官等ヲ定メサルモノハ本官ノ官等ニ依ル(二十六年勅令第百六十七號ヲ以テ本條各項ヲ改正削除)

第七條 初メテ高等文官ニ任セラル、者ノ官等ハ六等以下トス高等文官ヲ勤メ退官シタルモノ再ヒ高等官ニ任セラル、場合ニ於テ其官等ハ前官ノ官等以下トス

但前官ノ官等七等以下ナルトキハ陞シテ六等官ニ至ルコトヲ得(三十二年勅令第百二十七號ヲ以テ本條中改正)

第八條 高等官ノ官等ハ別ニ進級ノ例ヲ定メタルモノ及七等以下ノ者ヲ除ク外在職滿二年ヲ踰ユルニ非サレハ陞叙スルコトヲ得ス(二十八年九月勅令第百二十三號ニテ)

第八條ノ一 親任式ヲ以テ叙任セラル、官ニ任セラル、場合ニ於テハ第七

條及第八條ヲ文官任用令第一條第四項ニ依リ勅任文官ニ任用セララル、場
合ニ於テハ第七條ヲ適用セス(三十二年四月勅令第百二
十七號ヲ以テ本條追加)

第九條 高等文官ノ俸給ハ別ニ定ムルモノ、外左ノ如シ(三十一年十月勅令第
三百九號ニテ改正)

大臣 年俸六千圓

次官 年俸四千圓

參與官 年俸三千五百圓

造幣局長 年俸三千圓

專賣局長 年俸三千圓

橫濱稅關長 一級俸三千圓

神戸稅關長 二級俸二千五百圓

大坂稅關長 一級俸二千五百圓
二級俸二千圓

長崎稅關長

函館稅關長

橫濱港務局長

神戸港務局長

長崎港務局長

參事官

秘書官 高等文官年俸第一號表ニ依ル

書記官

大藏省鑑定官

專賣局鑑定官

稅務管理局長

稅關事務官

稅關監視官

稅關鑑定官

高等文官年俸第二號表ニ依ル

一級俸二千圓
二級俸千五百圓
一級俸千五百圓
二級俸千二百圓
一級俸二千五百圓
二級俸二千二百圓
三級俸二千圓
四級俸千八百圓
一級俸二千圓
二級俸千八百圓
三級俸千六百圓
四級俸千四百圓

臨時沖繩縣土地整理事務官

港務官

港務局醫官

專賣局事務官(廿二年勅令第一七一號ニテ改正)

司稅官

高等文官年俸第三號表ニ依ル

横濱稅關長、神戸稅關長、長崎稅關長、函館稅關長、横濱港務局長、神戸港務局長、長崎港務局長ニシテ一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ功績アル者ニ限リ五百圓以内ノ年功加俸ヲ給スルコトヲ得

高等文官年俸第一號表第二號表ニ依ル職員ハ一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ功績アル者ニ限リ五百圓以内ノ年功加俸ヲ給シ其ノ第二號表ニ依ル職員ニ在テハ高等官三等ニ陞叙スルコトヲ得

高等文官年俸第三號表ニ依ル職員ハ一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ功績アル者ニ限リ三百圓以内ノ年功加俸ヲ給シ高等官五等ニ陞叙スルコトヲ得

第十條 高等文官ノ俸給ニ關シテ別ニ定ムル所ナキモノハ總テ本令ノ規定ニ依ル

第十一條 同一ノ官職ニシテ官等ニ依リ其俸給ヲ異ニスルモノハ本令定ムル所ノ高等文官々等相當俸給表ニ依リ各其官等ニ照シテ之ヲ給ス

第十二條 同一官職ノ同一官等内ニ於テ其俸給ニ數級アル場合ニ於テハ其等級ニ依リ事務ノ繁簡ニ從ヒ本屬長官便宜之ヲ増減スルヲ得

第十三條 高等文官死亡シタルトキハ其在職中ナルト非職中ナルトニ拘ハラス在職最終年俸三分ノ一ヲ其遺族ニ給ス但遺族トハ官吏遺族扶助法ニ於テ遺族ト稱スル者ヲ謂フ

終身官ハ其在職中死亡シタル者ニ限リ前項ノ規定ニ依ル

第十四條 年俸ハ十二分シテ毎月之ヲ支給ス

第十五條 俸給ハ新任増俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス

第十六條 非職廢官退官退職及死亡ノトキハ年俸ヲ月割計算トシ當月分ノ全額ヲ給ス

第十七條 非職廢官退官者事務引繼殘務調理ノ爲特ニ命ヲ承ケ公務ニ從事
スルトキハ其間尙従前ノ年俸ヲ給ス

第十八條 病氣ノ爲執務セサルコト九十日ヲ踰ユル者及私事ノ故障ニ由リ
執務セサルコト三十日ヲ踰ユル者ハ俸給ノ半額ヲ減ス但公務ノ爲傷痍ヲ
受ケ若ハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者及特旨ニ由リ賜暇休養スル者ハ
此限ニアラス

第十九條 俸給支給ニ關スル細則ハ大藏大臣省令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則 (三十一年十月勅令
第三百九號ニ依ル)

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス
現任ノ高等官ニシテ本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セサル者ハ現ニ受クル
所ノ俸給ニ照シ高等文官々等相當俸給表ニ定ムル所ノ相當官等ニ叙セラレ
タルモノトス

明治二十九年勅令第三百二十八號第四條ニ依リ司稅官ニ任セラレタル者ニ
其ノ官等相當以下ノ俸給ヲ給スルコトヲ得

前項ノ司稅官ニシテ本令施行ノ際稅務管理局長ニ任セララルル者亦同シ
明治三十一年勅令第四百十五號明治二十九年勅令第七十三號明治三十一年
勅令第五百五十七號明治三十年勅令第七十九號同年勅令第四百一十一號明治二十
九年勅令第七號明治三十年勅令第二百七十九號同年勅令第四十八號明治二十
九年勅令第三百二十八號明治三十六年勅令第七十四號明治二十九年勅
令第三百二十八號明治三十年勅令第二百二十四號明治二十四年勅令第一百一號ハ
本令施行ノ日ヨリ廢止ス

高等文官年俸第一號表

一級	二千五百圓	二級	二千二百圓	三級	二千圓	四級	千八百圓
五級	千六百圓	六級	千四百圓	七級	千二百圓	八級	千圓
九級	九百圓	十級	八百圓	十一級	七百圓	十二級	六百圓
十三級	五百圓	十四級	四百圓	十五級	三百圓	十六級	二百圓
十七級	二百圓	十八級	一百圓	十九級	五十圓	二十級	三十圓
二十級	二十圓	二十一級	十圓	二十二級	五圓	二十三級	三圓
二十四級	二圓	二十五級	一圓	二十六級	五角	二十七級	三角
二十八級	二角	二十九級	一角	三十級	五分	三十一級	二分
三十二級	一分	三十三級	五分	三十四級	二分	三十五級	一分
三十六級	五分	三十七級	二分	三十八級	一分	三十九級	五分
四十級	二分	四十一級	一分	四十二級	五分	四十三級	二分
四十四級	一分	四十五級	五分	四十六級	二分	四十七級	一分
四十八級	五分	四十九級	二分	五十級	一分	五十一級	五分
五十二級	二分	五十三級	一分	五十四級	五分	五十五級	二分
五十六級	一分	五十七級	五分	五十八級	二分	五十九級	一分
六十級	五分	六十一級	二分	六十二級	一分	六十三級	五分
六十四級	二分	六十五級	一分	六十六級	五分	六十七級	二分
六十八級	一分	六十九級	五分	七十級	二分	七十一級	一分
七十二級	五分	七十三級	二分	七十四級	一分	七十五級	五分
七十六級	二分	七十七級	一分	七十八級	五分	七十九級	二分
八十級	一分	八十一級	五分	八十二級	二分	八十三級	一分
八十四級	五分	八十五級	二分	八十六級	一分	八十七級	五分
八十八級	二分	八十九級	一分	九十級	五分	九十一級	二分
九十二級	一分	九十三級	五分	九十四級	二分	九十五級	一分
九十六級	五分	九十七級	二分	九十八級	一分	九十九級	五分
一百級	二分	一百一級	一分	一百二級	五分	一百三級	二分
一百四級	一分	一百五級	五分	一百六級	二分	一百七級	一分
一百八級	五分	一百九級	二分	二百級	一分	二百一級	五分
二百二級	二分	二百三級	一分	二百四級	五分	二百五級	二分
二百六級	一分	二百七級	五分	二百八級	二分	二百九級	一分
三百級	五分	三百一級	二分	三百二級	一分	三百三級	五分
三百四級	二分	三百五級	一分	三百六級	五分	三百七級	二分
三百八級	一分	三百九級	五分	四百級	二分	四百一級	一分
四百二級	五分	四百三級	二分	四百四級	一分	四百五級	五分
四百六級	二分	四百七級	一分	四百八級	五分	四百九級	二分
五百級	一分	五百一級	五分	五百二級	二分	五百三級	一分
五百四級	五分	五百五級	二分	五百六級	一分	五百七級	五分
五百八級	二分	五百九級	一分	六百級	五分	六百一級	二分
六百二級	一分	六百三級	五分	六百四級	二分	六百五級	一分
六百六級	五分	六百七級	二分	六百八級	一分	六百九級	五分
七百級	二分	七百一級	一分	七百二級	五分	七百三級	二分
七百四級	一分	七百五級	五分	七百六級	二分	七百七級	一分
七百八級	五分	七百九級	二分	八百級	一分	八百一級	五分
八百二級	二分	八百三級	一分	八百四級	五分	八百五級	二分
八百六級	一分	八百七級	五分	八百八級	二分	八百九級	一分
九百級	五分	九百一級	二分	九百二級	一分	九百三級	五分
九百四級	二分	九百五級	一分	九百六級	五分	九百七級	二分
九百八級	一分	九百九級	五分	一千級	二分	一千一級	一分
一千二級	五分	一千三級	二分	一千四級	一分	一千五級	五分
一千六級	二分	一千七級	一分	一千八級	五分	一千九級	二分
二千級	一分	二千一級	五分	二千二級	二分	二千三級	一分
二千四級	五分	二千五級	二分	二千六級	一分	二千七級	五分
二千八級	二分	二千九級	一分	三千級	五分	三千一級	二分
三千二級	一分	三千三級	五分	三千四級	二分	三千五級	一分
三千六級	五分	三千七級	二分	三千八級	一分	三千九級	五分
四千級	二分	四千一級	一分	四千二級	五分	四千三級	二分
四千四級	一分	四千五級	五分	四千六級	二分	四千七級	一分
四千八級	五分	四千九級	二分	五千級	一分	五千一級	五分
五千二級	二分	五千三級	一分	五千四級	五分	五千五級	二分
五千六級	一分	五千七級	五分	五千八級	二分	五千九級	一分
六千級	五分	六千一級	二分	六千二級	一分	六千三級	五分
六千四級	二分	六千五級	一分	六千六級	五分	六千七級	二分
六千八級	一分	六千九級	五分	七千級	二分	七千一級	一分
七千二級	五分	七千三級	二分	七千四級	一分	七千五級	五分
七千六級	二分	七千七級	一分	七千八級	五分	七千九級	二分
八千級	一分	八千一級	五分	八千二級	二分	八千三級	一分
八千四級	五分	八千五級	二分	八千六級	一分	八千七級	五分
八千八級	二分	八千九級	一分	九千級	五分	九千一級	二分
九千二級	一分	九千三級	五分	九千四級	二分	九千五級	一分
九千六級	五分	九千七級	二分	九千八級	一分	九千九級	五分
一萬級	二分	一萬一級	一分	一萬二級	五分	一萬三級	二分
一萬四級	一分	一萬五級	五分	一萬六級	二分	一萬七級	一分
一萬八級	五分	一萬九級	二分	二萬級	一分	二萬一級	五分
二萬二級	二分	二萬三級	一分	二萬四級	五分	二萬五級	二分
二萬六級	一分	二萬七級	五分	二萬八級	二分	二萬九級	一分
三萬級	五分	三萬一級	二分	三萬二級	一分	三萬三級	五分
三萬四級	二分	三萬五級	一分	三萬六級	五分	三萬七級	二分
三萬八級	一分	三萬九級	五分	四萬級	二分	四萬一級	一分
四萬二級	五分	四萬三級	二分	四萬四級	一分	四萬五級	五分
四萬六級	二分	四萬七級	一分	四萬八級	五分	四萬九級	二分
五萬級	一分	五萬一級	五分	五萬二級	二分	五萬三級	一分
五萬四級	五分	五萬五級	二分	五萬六級	一分	五萬七級	五分
五萬八級	二分	五萬九級	一分	六萬級	五分	六萬一級	二分
六萬二級	一分	六萬三級	五分	六萬四級	二分	六萬五級	一分
六萬六級	五分	六萬七級	二分	六萬八級	一分	六萬九級	五分
七萬級	二分	七萬一級	一分	七萬二級	五分	七萬三級	二分
七萬四級	一分	七萬五級	五分	七萬六級	二分	七萬七級	一分
七萬八級	五分	七萬九級	二分	八萬級	一分	八萬一級	五分
八萬二級	二分	八萬三級	一分	八萬四級	五分	八萬五級	二分
八萬六級	一分	八萬七級	五分	八萬八級	二分	八萬九級	一分
九萬級	五分	九萬一級	二分	九萬二級	一分	九萬三級	五分
九萬四級	二分	九萬五級	一分	九萬六級	五分	九萬七級	二分
九萬八級	一分	九萬九級	五分	十萬級	二分	十萬一級	一分

九級七百圓 十級六百圓

第三號表

一級千二百圓 二級千一百圓 三級千圓 四級九百圓
五級八百圓 六級七百圓 七級六百圓 八級五百圓
九級四百五十圓 十級四百圓

高等文官等相當俸給表(拔抄)

官名	等級	俸給
各省參事官	一級	千二百圓
	二級	千一百圓
各省大臣秘書官	一級	千圓
	二級	九百圓
各省書記官	一級	八百圓
	二級	七百圓
大藏省鑑定官	一級	六百圓
	二級	五百圓
專賣局鑑定官	一級	四百五十圓
	二級	四百圓
臨時葉煙草取扱所建築部事務官	一級	三百圓
	二級	二百圓

官名	等級	俸給
稅務管理局長	一級	千二百圓
	二級	千一百圓
稅關事務官	一級	千圓
	二級	九百圓
稅關鑑定官	一級	八百圓
	二級	七百圓
臨時沖繩縣土地整理事務所事務官	一級	六百圓
	二級	五百圓
專賣局事務官	一級	四百五十圓
	二級	四百圓
司稅官	一級	三百圓
	二級	二百圓

○勅令第四十三號 二十七年四月十二日
文武判任官等級表(拔抄)

等級	俸給
一級	千二百圓
二級	千一百圓
三級	千圓
四級	九百圓
五級	八百圓

廳各 技手 全全全	島郡 廳區 書記 全全全	稅務 屬 全全全	府 北海 道廳 屬 縣 特 別 二級 俸	監專 賣 視局 全全全	監 視 全全
廳各 技手 全全	島郡 廳區 書記 全全	稅務 屬 全全	府 北海 道廳 屬 縣 三 級 俸	監專 賣 視局 全全	監 視 全
廳各 技手 全全	鳴郡 廳區 書記 全全	稅務 屬 全全	府 北海 道廳 屬 縣 五 級 俸	監專 賣 視局 全全	監 視 全
廳各 技手 全全	鳴郡 廳區 書記 全全	稅務 屬 全全	府 北海 道廳 屬 縣 七 級 俸	監專 賣 視局 全全	監 視 全
廳各 技手 全全全	鳴郡 廳區 書記 全全全	稅務 屬 全全全	府 北海 道廳 屬 縣 九 級 俸 未滿	監專 賣 視局 全全 未滿	監 視 全

稅 關 全	鑑稅 定官 補關 全全全	事務 官補 關 全全全	鑑專 定官 補局 全全全	鑑大 定官 補省 全全全	專專 務賣 官局 補全全	廳各 屬 二一 級特 俸俸
稅 關 全	鑑稅 定官 補關 全全	事務 官補 關 全全	鑑專 定官 補局 全全	鑑大 定官 補省 全全	專專 務賣 官局 補全全	廳各 屬 四三 級 俸俸
稅 關 全	鑑稅 定官 補關 全全	事務 官補 關 全全	鑑專 定官 補局 全全	鑑大 定官 補省 全全	專專 務賣 官局 補全全	廳各 屬 六五 級 俸俸
稅 關 全	鑑稅 定官 補關 全全	事務 官補 關 全全	鑑專 定官 補局 全全	鑑大 定官 補省 全全	專專 務賣 官局 補全全	廳各 屬 八七 級 俸俸
稅 關 全	鑑稅 定官 補關 全全	事務 官補 關 全全	鑑專 定官 補局 全全	鑑大 定官 補省 全全	專專 務賣 官局 補全全	廳各 屬 十九 級 俸俸

勅令第八十三號 二十四年七月二十四日

判任官俸級令

第一條 判任文官ノ月俸ヲ分テ十級トシ別表ニ依リ毎月下旬ニ於テ之ヲ支給ス

第二條 陸海軍准士官下士ノ月俸ハ別ニ定ムル所ニ依ル其他特ニ定ムルモノハ前條ノ限ニアラス

第三條 判任官ハ每級在職一年以上ニ至ラザレハ増給スルコトヲ得ス但シ六級俸以下ノ者ハ此ノ限ニアラス(三十一年十月勅令第三二〇號ニテ但書中改正)

第四條 判任官最上級俸ヲ受ケ五年ヲ踰ヘ事務練熟優等ナル者ハ特別ヲ以テ別表ノ範圍ニ拘ラス漸次百圓マテ増俸スルコトアルヘシ(全上)

第五條 官ニ在リテ死亡シタル者ハ月俸三箇月分ヲ其遺族ニ給ス非職者ニ於テモ亦同シ但遺族トハ官吏遺族扶助法ニ於テ遺族ト稱スル者ヲ謂フ(二十五年勅令第九十七號ニテ但書追加)

第六條 前條ノ外俸給支給ニ關シテハ高等官官等俸給令第十五條第十六條

第十七條第十八條ノ例ニ依ル(二十五年勅令第九十七號ニテ本條中改正)

第七條 俸給支給ニ關スル細則ハ大藏大臣省令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

第八條 本令ハ明治二十四年八月十六日ヨリ施行ス明治十九年勅令第三十

六號判任官々等俸給令ハ本令施行ノ日ヨリ廢ス

別表(三十一年十月勅令第三二〇號ヲ以テ本表改正)

- 一級 七十五圓 三級五 十圓 五級 四十圓 七級 三十圓
- 二級 六十圓 四級四十五圓 六級 三十五圓 八級 二十五圓
- 九級 二十圓
- 十級 十五圓

附則(三十一年勅令第三百十號ノ分)

本令ハ明治三十一年十一月一日ヨリ施行ス

現任ノ判任官ニシテ本令施行ノ際別ニ辭令書ヲ交付セサル者ハ現ニ受クル

所ノ俸給額相當ノ俸給ヲ受クルモノトス

○勅令第三百廿五號 三十一年十月二十二日

稅務屬及專賣局屬及專賣局監視俸給ハ明治二十六年勅令第八十二號ヲ適用ス(三十二年四月二十一日勅令第百七十三號ヲ以テ本文中改正)

○勅令第八十二號 二十六年十月三十日

警視廳、北海道廳、府、縣島廳郡區ヲ包含ス及集治監判任官ニハ判任官俸給令中別表ニ掲ケル最低額以下六圓マテノ月俸ヲ給スルコトアルヘシ

○大藏省令第十一號 二十五年十二月二十三日

文官俸給支給細則左ノ通り相定メ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス
但明治二十三年當省令第十號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

文官俸給支給細則

第一條 高等文官及判任文官ノ俸給ハ各廳左ノ日割定日ニ於テ支給スルモ

ノトス但休日ニ當ルトキハ順延トス

每月二十一日 外務省及其所管經費ニ屬スル官廳

內務省及其所管經費ニ屬スル官廳

每月二十二日 大藏省及其所管經費ニ屬スル官廳

陸軍省及其所管經費ニ屬スル官廳

每月二十三日 海軍省及其所管經費ニ屬スル官廳

司法省及其所管經費ニ屬スル官廳

第二條 非職廢官退官退職及死亡ノ時ハ當月分ノ俸給全額ヲ其際支給スルモノトス

高等官々等俸給令第十七條ニ依リ殘務調理ヲ命セラレタル者其調理翌月

以降ニ涉リ全月分ヲ支給スルモノハ第一條ノ支給定日ニ依ル但最後ノ月ハ日割ヲ以テ調理終了ノ日迄ヲ其際支給ス

第三條 轉任者ノ俸給ハ其發令ノ當日迄ヲ甲廳ノ負擔トシ翌日以降ノ分ハ

乙廳ニ於テ之ヲ支給スルモノトス

第四條 他處へ轉任シタルモノハ第一條ノ支給日ニ拘ハラヌ日割計算ヲ以

テ發令ノ當日迄ニ係ル俸給ヲ其際支給ス

第五條 他處へ轉任ノ際俸給過渡アルトキハ前任廳ニ於テ其際之ヲ追徴ス

ヘシ

第六條 俸給支給定日後他廳ヨリ轉任シ來リタルトキハ後任給ニ於テ其月

ノ殘日數ニ對スル俸給ヲ其際支給スルモノトス

第七條 高等官々等俸給令第十八條ニ依リ減給ノ者非職廢官退官退職及死

亡ノ時ハ其減給ニ係ル當月分ノ全額ヲ支給スルモノトス

第八條 傷痍忌引若クハ特旨賜暇ノ場合ハ病氣若クハ私事故障ト連續スル

モ減給トナルヘキ欲勤日數中ニ算入セス又病氣ト私事故障ト連續スル場

合ニ於テハ之ヲ通算セス

第九條 俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數生スルトキハ之ヲ切

捨ルモノトス

日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ルヘシ

○大藏省達第二六三號 三十年二月一日

大藏省雇員俸給支給例

第一條 雇員ノ月俸ハ毎月廿一日休日ニ當ルハハ順延トス日給ハ其月分ヲ翌月二日休日ニ當ルハハ繰上ケ十二月ニ支給スルモノトス

本廳外在勤者ノ日給ハ前月廿一日ヨリ其月廿日迄ヲ其月以内ニ支給スル

コトヲ得(三十年三月第四號達追加)

第二條 月俸者ノ俸給ハ判任官ノ俸給方法ニ準據シテ支給ス

但解雇ノ月ハ日割ヲ以テ計算ス

第三條 日給者ノ俸給ハ上廳ノ日數ニ應シテ之ヲ支給ス

第四條 豫備後備ノ軍籍ニアルモノ戰時其他ノ場合ニ於テ召集セラレタル

トキハ召集ニ應シタル翌日ヨリ解隊上廳ノ前日迄ノ俸給ヲ停止ス

第五條 日給者上廳セサルモ左ノ場合ニ於テハ俸給ヲ支給ス

- 一 一般又ハ特ニ大臣ノ達ニ係ル休日休日後前上廳セサルモノハ之ヲ除ク及暑中賜暇七日以內
- 二 公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ又疾病ニ罹リタルトキ
- 三 父母ノ祭日
- 四 忌服又ハ檢疫事項ニヨリ上廳スル能ハサルトキ
- 第六條 傭外國人ノ俸給ハ其傭人契約書ニ據リ支給スルモノトス
- 第七條 雜給ニ屬スル傭巡視馭者寫字生及給仕小使馬丁及小者ノ類ハ總テ前各條ノ支給方ニ據ルモノトス
- 但給仕以下ハ月給者ト雖トモ支給方ハ日給者ノ例ニ據ル
- 第八條 作業場雇員以下ノ俸給支給方法ハ別ニ定ムル處ニ據ル

○勅令第六十五號 二十四年八月十日
官制又ハ俸給令ノ改正ニ依リ新ニ給スヘキ俸給ハ新令施行ノ當日ヨリ計算ス

○勅令第六十二號 二十四年七月二十七日
文官ニシテ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者陸軍給與令第十八條改正ノ十六條ニ依リ俸給ヲ受クル間ハ文官俸給ノ支給ヲ停止ス但其額文官俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其不足額ハ奉職官廳ニ於テ文官俸給ヨリ之ヲ補給ス

○勅令第五十七號 二十七年八月三十一日
陸軍歸休兵ニシテ文官タル者戰時若クハ事變ニ際シ又ハ演習ノ爲メ召集セラレタルトキハ其俸給支給方ハ明治二十四年勅令第六十二號ノ規程ヲ準用ス

○陸達第百十三號 二十七年九月十日
豫備後備ノ軍人及歸休兵ニシテ文官タル者召集ニ應シ明治二十四年勅令第百六十二號明治二十七年勅令第五十七號ニ依リ奉職官廳ヨリ俸給ノ補給

ヲ受クル者ニ係ル取扱左ノ通定ム
第二項 左ニ掲クル事項ハ本人ヨリ所属部隊ノ証明ヲ受ケ其時々奉職官廳

ニ届出ツルモノトス

一 部隊ニ編入セラレタルトキハ其月日及部隊ヨリ受クヘキ俸給額

二 召集中俸給額ニ異動ヲ生シタルトキ其變更額及月日

三 解散セラレタルトキハ其月日

第三項 前項ノ俸給額ハ戰時給與規則ニ依リ増給ヲ受クル場合ニ在テハ其

増給ヲ除クモノトス

第三項 傭員ニシテ當該官廳ヨリ給料ノ補給ヲ受クル者ハ前二項ノ例ニ依

ル

○勅令第四百十九號 二十七年七月二十八日
文官ニシテ海軍豫備後備外軍籍ニ在ル者海軍軍人俸給令第十七條ニ依リ俸
給ヲ受クル間ハ文官俸給ノ支給ヲ停止ス但其額文官俸給額ヨリ寡少ナルト

キハ其不足額ハ文官俸給ヨリ之ヲ補給ス

○勅令第七號 二十六年二月二十三日
傭員俸給及其他ニ給スル諸手當ニシテ月額ヲ以テ支給スルモノハ毎月下旬
ニ之ヲ支給スルコトヲ得

○大藏省訓令第九〇六號 二十五年四月二十七日

府 縣

内國稅徵收費支辨ノ官吏懲戒例ニ於ケル罰俸ノ義ハ減俸ト同シク俸給中ヨ
リ之ヲ扣除シ雜收入ニ編入セサル義ト心得ヘシ
右訓令ス

○官吏職務上ニ關シ刑事被告人トナリシ場合俸給及旅費支給方

二十六年五月官報第
六號ノ内務省通牒

宮崎縣ヨリ官吏職務上ニ關シ刑事被告人トナリシ場合俸給並旅費支給方ノ件伺出ニ對シ左記之通指令相成候條爲御心得及通牒候也

宮崎縣伺 二十六年一月二十七日

警察官吏等職務ヲ以テ行フタル現行犯逮捕訊問及其檢證處分等ニ關シ刑事ノ被告人トナリ裁判所へ出頭シタルトキニ於テ其俸給ハ假令判決ノ無罪若クハ免訴ニ出テタル場合ト雖トモ都テ私事ノ故障トナシ出庭ノ爲メ任地出發ノ日ヨリ起算シ成規ニ依リ減給シ右出庭ニ要スル旅費モ亦一切支給セサル儀ト心得可然哉

指令 二十六年五月

伺之通

○司稅官以下各管理局間轉勤ノ場合ニ於ケル俸給支給ノ負擔方ノ件

三十年四月廿九日坤第四
三二二號主稅局長通牒

司稅官司稅官補稅務屬ノ各管理局間轉勤ノ場合ニ於テ其月分俸給ハ俸給支

給期日ニ本人ノ在勤スル管理局ノ負擔トシ日割計算ヲ爲サスシテ整理相成度
依命通牒候也

○司稅官以下轉勤ノ場合ニ於ケル俸給支給方ノ件 三十一年一月廿四日坤第七
五二號ノ一主稅局長通牒

客年四月廿九日坤第四三二二號ヲ以テ司稅官司稅官補稅務屬ノ各管理局間轉勤ノ場合俸給支給方之義ニ付及通牒置候處尙ホ俸給支給期日以前ニ轉勤ヲ命セラレタルモ支給期日マテニ辭令到達セサルトキハ前任應ノ負擔トシ整理相成度
右依命通牒候也

○月俸雇員轉勤ノ場合ニ於ケル俸給支給ノ負擔方 三十一年十二月二十日坤第八
八三四號ノ二主稅局長通牒
稅務管理局長司稅官稅務屬ノ各管理局間轉勤ノトキ俸給支給方ノ義ニ付曩ニ及通牒置候處月俸雇員轉勤ノ場合ニ尙同一支給方法ニ依リ整理相成度

右依命通牒候也

○文官ニシテ軍籍ニアルモノ召集セラル、トキ文官俸給補給方ハ各日割ヲ以テ計算ノ件 三十一年四月十八日坤第二九一號ノニ主稅局長通牒

文官ニシテ軍籍ニアル者召集セラル、トキ文官俸給補給方ニ付テハ文官月給全額ヲ陸海軍給與額ニ對比シ其不足ヲ生スル場合ニ於テ補給スルコトニ省議ヲ經過般府縣收稅長稅務諮問會ニ於テ及注意候次第モ有之候處右ハ各日割ヲ以テ文武官俸給ヲ對比シ支給スルコトニ省議改定相成候

右通牒

○雇員俸給支給例ニ依リ支給スル日給者ノ増減給ハ發令ノ翌日ヨリ支給ノ件 三十一年七月六日坤第五〇二〇號ノニ大藏省官房第四課長通牒

當省雇員俸給支給例ニ依リ支給スル日給者ニシテ増減給ノ場合ニ於テ支給方往々發令ノ當日ヨリ計算致居候向モ有之候趣ニ候へ共爾今右ハ發令ノ翌

日ヨリ支給スヘキ儀ニ一定候條爲念此段通牒

○勅令第九十八號 二十三年六月二十日

文官判任以上ノ者在官滿一年以上ニシテ退官シタル者ニハ退官現時ノ俸給半ケ月分ヲ以テ在官年數ノ一ケ年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス但非職滿期ニ由リ退官シタル者ハ其在職最終ノ俸給額ニ依リ之ヲ給ス (二十勅令第二十號ヲ以テ本項中削除)

本令施行前ニ滿年賜金若クハ一時賜金ヲ受ケタル者又ハ前項ノ賜金ヲ受ケタル者再ヒ任官シ自後退官シタルトキハ前項ニ掲クル在官年數ヲ其再任ノ日ヨリ起算ス

恩給ヲ受クル者並自己ノ便宜ニ由リ退官シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ由リ免官シタル者ニハ本令ノ賜金ヲ給セス

本令ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

○大藏省令第一號 二十二年一月二十六日
 年額又ハ月額ノ手當金ハ毎月ノ年額ノモノハ末日^{休日ニ當ル時ハ繰上ケ}之ヲ支給シ任轉免等
 ノ場合ハ其月ノ現日數ニ由リ日割ヲ以テ計算ス
 但明治十六年當省達第五十七號ハ廢止ス

○第七七〇號 三十二年四月十三日大藏大臣達

東京稅務管理局

稅務管理局見習員手當支給方ハ明治三十年十一月當省訓令第六十八號ニ準據スヘシ

(參照)

大藏省訓令第六十八號 三十年十一月四日
 葉煙草專賣所見習員手當支給規則

- 第一條 葉煙草專賣所見習員手當ハ毎月二十一日^{休日ニ當ルトキハ繰下ケトス}ニ支給ス
- 第二條 新拜命及増額減額トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算シ日割ヲ以テ支給ス
- 第三條 轉任若クハ罷免ノトキハ發令ノ日マテ日割ヲ以テ計算シ死亡ノトキハ當月分全額ヲ實際支給ス
- 第四條 病氣其他私事故障ノ爲出所セサルコト十五日ヲ踰ユルモノハ半額ヲ減シ其三十日ヲ踰ユルモノハ支給セス但公務ノ爲傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ又ハ父母ノ祭日服忌ヲ受ケル者及特旨ニ由リ賜暇休養スル者並ニ檢疫事項ニ依リ出所スルコト能ハサルモノハ此限ニアラス
- 第五條 前條但書ノ場合ニ於テ病氣其他私事故障ト連續スルモ減額トナルヘキ日數中ニ算入セズ
- 第六條 豫備後備ノ軍籍ニアルモノ戰時其他ノ場合ニ於テ召集セラレタルトキハ召集ニ應シタル翌日ヨリ出所ノ前日マテ支給ヲ停止ス
- 第七條 甲所ヨリ乙所ヘ轉スル場合ハ日割計算セス其月分ハ支給定日ニ現在スル應ノ負擔トス但轉所ノ際増減ヲ生シタルトキハ乙所ニ於テ追給若クハ追徴ノ手續ヲナスヘシ
- 第八條 手當ヲ支給スルニ當リ厘位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ルモノトス日割計算ノ方法ハ其月ノ現日數ニ依ルヘシ

附則

第九條 本規則ハ明治三十年十一月ヨリ施行ス

○休職并減俸處分ニ關シ俸給支給方 三十二年八月九日官房職甲第
五三七號大藏大臣秘書官通牒

左記ノ通閣議決定ノ件ニ付内閣書記官長ヨリ通知有之候間此段及御通知候也

内閣書記官長ヨリ大藏次官へ通牒 三十二年七月二十八日

今般休職并減俸處分ニ關シ左ノ通決定相成候間此段及御通牒候也

第一 文官分限令ニ依リ休職ヲ命セラレタル者ハ同令第十七條及高等官
々等俸給令第十六條ニ依リ當月分ノ俸給全額ヲ支給ス可キモノトス

第二 文官懲戒令ニ依リ減俸ニ處セラレタル者其期間内ニ於テ休職ヲ命
セラレタルトキハ其減俸期間中殘額ノ三分ノ一ヲ休職給トシテ支給ス
可キモノトス

第三 減俸處分ノ期間中俸給ニ増減アリタルトキハ處分當時ノ俸給ニ拘
ラス總テ其現ニ受クル俸給額ニ依リ減俸スヘキモノトス

第四 休職者疾病ニ罹リ其職ニ堪ヘサルニ依リ免官ヲ出願シタル時ハ文
官分限令第三條第一項第二號前段ニ準シ之ヲ許スコトヲ得

第六章 會計

○法律第四號 二十二年二月十一日
會計法

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月三十日マテニ悉皆完結スヘシ

第二條 租稅及其ノ他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ總豫算ニ編入スヘシ

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノ、外特別ノ資金ヲ

有スルコトヲ得ス

第二章 豫算

第五條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

第六條 歳入歳出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添付スヘシ

第一 各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第二 其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出現計書

第七條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一 豫備金

第二 豫備金

第一 豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二 豫備金ハ豫算外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其ノ

承諾ヲ求ムルヲ要ス

第九條 毎年度大藏省証券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定

ム

第三章 收入

第十條 租稅及其ノ他ノ歳入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ

法律命令ニ依リ當該官吏ノ資格アル者ニ非サレハ租稅ヲ徵收シ又ハ其ノ

他ノ歳入ヲ收納スルコトヲ得ス

第四章 支出

第十一條 毎會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歳

入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第十二條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ

金額ヲ彼此流用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ其ノ所管ニ属スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコ

トヲ得ス

第十三條 國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒ仕拂命令ヲ

發スヘシ但シ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ

發セシムルコトヲ得

第十四條 國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得

ス

第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若ハ其ノ代理人ノ爲ニスル

ニ非サレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタ

ル銀行ニ委任シテ現金支拂ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發ス

ルコトヲ得

第一 國債ノ元利拂

第二 軍隊軍艦及官船ニ属スル經費

第三 在外各廳ノ經費

第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ支拂ヲ爲ス經費

第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ支拂ヲ爲ス經費

第六 廳中常用雜費ニシテ一ケ年ノ經費額五百圓ニ滿タサルモノ

第七 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第八 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マテヲ限ル

第五章 決算

第十六條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同一様ノ式ヲ用キ左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定済歳入額

收入済歳入額

收入未済歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令済歳出額

翌年度繰越額

第十七條 前條ノ總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添付スヘシ

第一 各省決算報告書

第二 國債計算書

第三 特別會計々算書

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五ケ年内ニ債主ヨリ支出ノ請求若ハ仕拂ノ請求ヲ爲サ、ルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メ

タルモノハ各々其ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿五ケ年以内ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各々其ノ定ムル所ニ依ル

第七章 歲計剩餘定額繰越豫算外収入及定額戻入

第二十條 各年度ニ於テ歲計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歲入ニ繰入ルヘシ

第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遲延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十二條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬ス

ル収入及其他一切豫算外ノ収入ハ總テ現年度ノ歲入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各々之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ル、コトヲ得

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競争ニ付スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ

第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ル、トキ

第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ

第三 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ

第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ル、トキ

第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合

第七 五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

第八 見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ

第九 軍艦ヲ買入ル、トキ

第十 軍馬ヲ買入ル、トキ

第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ル、トキ

第十二 慈惠ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ備役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ

第十三 囚徒ヲ備役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政

府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ル、トキ

、トキ

第十四 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈惠教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ

第十五 軍艦兵器彈藥ヲ除ク外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十九章 出納官吏

第二十六條 政府ニ屬スル現金若ハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ其ノ保管スル所ノ現金若ハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカラ

サリシ事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス

第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十九條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼ヌルコトヲ得ス

第十章 雜則

第三十條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得

特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三十一條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第十一章 附則

第三十二條 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セサルモノハ明治二十三年四月一

日ヨリ施行シ其ノ關涉スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス

決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲計ヨリ施行ス

第三十三條 本法ノ條項ト牴觸スル法令ハ各其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス

○勅令第六十號 二十二年四月三十日
會計規則

第一章 會計年度所屬區分、歲入歲出金出納

第一條 歲入ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル

第一 納期ノ一定シタル收入ハ其納期末日ノ屬スル年度

第二 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發スルモノハ納額告知書ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第三 隨時ノ收入ニシテ納額告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度

第二條 歲出ノ所屬年度ハ左ノ區分ニ據ル

第一 公債ノ元利賞勳年金恩給諸祿ノ類ハ仕拂期日ノ屬スル年度

第二 諸拂戻缺損補填ハ其拂戻又ハ補填ノ決定ヲ達シタル日ノ屬スル年度

第三 俸給手數料旅費ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル時ノ屬スル年度

第四 廳中雜費土木建築費其他物件ノ購入代價ノ類ハ契約ヲ爲シタル日

ノ屬スル年度但土木建築費ノ如キ契約ノ數年ニ涉ルコトヲ得ヘキ
モノハ契約ニ據リ定メタル仕拂期日ヲ以テ區分スヘシ

第五 前各項ニ掲クル類別ニ入ラサル費用ハ總テ仕拂命令ヲ發シタル日
ヲ以テ年度ノ所屬ヲ定ムヘシ

第三條 毎年度所屬歳入歳出金ヲ金庫ニ於テ出納スルハ翌年度七月三十一
日限リトス(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本條中改正)

第二章 豫算

第一款 總豫算

第四條 大藏大臣ハ歳入ノ景況ヲ調査シ各省ノ豫定經費要求書ニ基キ歳入
歳出總豫算ヲ調製スヘシ

總豫算ノ首ニハ歳計全體ニ關スル説明ヲ付スヘシ

第五條 歳入豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク歳入ノ性
質ヲ明示スヘシ

第六條 歳出豫算ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シテ調製シ成ルヘク經費ノ目

的ヲ明ニスヘシ

第七條 歳入歳出總豫算款項ノ區分ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第二款 豫定經費要求書

第八條 各省大臣ハ毎年度其所管經費ノ需用高ヲ算定シ前年度ノ定額ト比
較ヲ立テ豫定經費要求書ヲ調製シ前年度八月三十一日マテニ之ヲ大藏大
臣ニ送付スヘシ(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本條中改正)

第九條 各省ノ豫定經費要求書ハ經常臨時共ニ款項ニ區分シ更ニ各項中所
要ノ金額ヲ各目ニ區分シ尙ホ必要ノ場合ニ於テハ番號ヲ以テ之ヲ細分シ
又經費所要ノ理由計算ノ基ク所ヲ示スヘシ

第十條 各省ノ豫定經費要求書ニハ各省所管經費全體ニ關スル説明及各款
各項ノ説明ヲ付スヘシ

第三款 仕拂豫算

第十一條 各省大臣ハ毎年度決定ノ豫算定額ニ基キ仕拂命令官毎ニ所要ノ

費額ヲ定メ仕拂豫算ヲ調製シ大藏大臣及會計検査院ニ送付スヘシ(二十六
年勅令
第百十二號ヲ以
テ本條中改正)

仕拂豫算ハ各項ノ金額ヲ示スヘシ

第十二條 仕拂豫算ヲ更定シタルトキハ其計算書ヲ大藏大臣及會計検査院
ニ送付スヘシ(二十六
年勅令第百十
二號ヲ以テ本條改正)

第十三條 大藏大臣仕拂豫算若クハ其更定計算書ノ送付ヲ受ケタルトキハ
之ヲ金庫ニ令達スヘシ(二十六
年勅令第百十
二號ヲ以テ本條改正)

第四款 歳入歳出現計書

第十四條 會計法第六條ニ掲クル歳入歳出現計書ハ大藏省ニ備ヘタル主計
簿ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第十五條 歳入歳出現計書ニハ總豫算ニ定メタル區分ニ從ヒ其年三月三十
一日ヲ以テ終リタル年度ニ屬スル歳入歳出ノ七月三十一日ニ於ケル左ノ
事項ノ現計ヲ示スヘシ(二十六
年勅令第百十二
號ヲ以テ本條中改正)

歳入ノ部

歳入豫算額

調定済歳入額

収入済歳入額

収入未済歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令済歳出額

翌年度繰越額

第五款 豫備金支出

第十六條 豫備金ハ大藏大臣之ヲ管理ス

第十七條 豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途及豫備金ヲ以テ支辨スル費途ノ
金額ハ他ノ費途ニ流用スルコトヲ得ス

第十八條 第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ハ毎年度豫メ勅令ヲ以テ之

ヲ定ム

第十九條 各省大臣第一豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ

第二十條 大藏大臣第一豫備金ノ支出ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院ニ通知スヘシ

第二十一條 各省大臣第二豫備金ノ支出ヲ要スルトキハ金額理由ヲ示ス所ノ計算書ヲ作り之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第二十二條 大藏大臣ハ前條ノ計算書ヲ調製シ其意見ヲ付シテ勅裁ヲ請フヘシ

第二十三條 第二豫備金支出ノ勅裁アリタルトキハ大藏大臣其事故金額ヲ會計検査院ニ通知シ及官報ニ掲載スヘシ

第二十四條 豫備金ヲ以テ補充支辨シタル金額ハ各省大臣其計算書ヲ作り各費途毎ニ説明ヲ付シ年度經過後五ヶ月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

大藏大臣ハ豫備金支出ヲ第一豫備金支出ト第二豫備金支出トニ大別シ其總計算書ヲ作り之ニ説明ヲ付シ各省大臣ヨリ送付シタル豫備金支出ノ計算書ト共ニ帝國議會ニ提出スルノ手續ヲ爲スヘシ

第三章 收入

第二十五條 收入官吏現金ヲ以テ租稅其他ノ收入ヲ領收スルトキハ其領收証ヲ納人ニ交付スヘシ

第二十六條 現金ヲ領收スル收入官吏ハ大藏大臣定ムル所ノ規則ニ從ヒ毎月一回若クハ其數回其領收シタル金額ヲ金庫ニ拂込ムヘシ但金庫ノ設ナキ運輸通信ノ不便ナル地方ニ在ル收入官吏ノ領收シタル金額ハ該官吏之ヲ保管シ大藏大臣ノ指定ニ從ヒ金庫ニ拂込ノ手續ヲ爲スヘシ(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本條但書中削除)

第二十七條 金庫ハ收入官吏又ハ納人ヨリ租稅其他ノ收入金ヲ領收スルトキハ其領收證ヲ拂込人又ハ納人ニ交付シ領收濟ノ旨ヲ收入官吏ノ拂込ニ係ル分ニ付テハ歲入ノ徵收ヲ監督スル所ノ官吏ニ又納人ニ係ル分ニ付テ

ハ收入官吏ニ通知スヘシ(二十六年勅令第百十
二號ヲ以テ本條改正)

第二十八條(二十六年勅令第百十
二號ヲ以テ本條削除)

第二十九條(同 上)

第三十條 收入官吏ハ其收入ヲ記入スル帳簿ノ結果ニ據リ毎月收入報告書ヲ調製シ参照書類ヲ添へ各省大臣ノ定メタル期限ニ之ヲ其事務管理廳ニ送付スヘシ

第三十一條 歳入ノ事務管理廳ハ收入官吏ヨリ送付シタル收入報告書ニ據リ毎月收入總報告書ヲ作り之ニ必要ナル参照書類ヲ添へ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四章 支出

第一款 仕拂命令

第三十二條 仕拂命令官ハ總テ仕拂命令ヲ發スル前其經費ハ正當ニシテ必要ナルヤヲ調査シ該經費ノ金額ヲ算定シ又該經費ハ仕拂豫算額ニ超過スルコトナキヤ支出科目及所屬年度ヲ誤ルコトナキヤ該經費ハ豫算ヲ以テ

定メラレタル目的ト違フコトナキヤヲ調査スヘシ

第三十三條 仕拂命令ニハ債主若クハ其代理人ノ氏名、仕拂フヘキ金額、支出科目、年度、番號ヲ記載スヘシ但支出科目ノ同一ナルモノハ數人ノ債主ニ對シ集合仕拂命令ヲ發シ別ニ各債主ノ金額氏名表ヲ添ユルコトヲ得(二十六年勅令第百十二
號ヲ以テ本條中削除)

現金前渡ノ仕拂命令ニハ前渡ヲ受クヘキ官吏ノ資格、氏名(銀行ナレハ其名稱)前渡ヲ爲スヘキ金額、支出科目、年度及番號ヲ記載スヘシ

第三十四條 仕拂命令ハ二項毎ニ之ヲ發スヘシ

第三十五條 仕拂命令官第三十二條ノ調査ヲ了シタルトキハ其仕拂命令ヲ受取代ニ交付スヘシ但數人ノ債主ニ對スル集合仕拂命令及仕拂命令ヲ當テタル金庫所在地ノ外ニ於テ仕拂ヲ要スルモノハ直ニ仕拂命令ヲ金庫ニ送付シ受取人ニ仕拂ノ手續ヲ爲スヘシ(二十六年勅令第百十
二號ヲ以テ本條改正)

第三十六條 仕拂命令官前條ニ據リ仕拂命令ヲ受取人ニ交付セントスルトキハ前以テ案内仕拂命令ヲ金庫ニ送付スヘシ(二十六年勅令第百十
二號ヲ以テ本條改正)

第三十七條

(二十六年勅令第百十
三號ヲ以テ本條削除)

第三十八條

(同前條ノ旨ニ依リ
本條ヲ廢止ス)

第三十九條 現金前渡ノ仕拂命令ハ左ノ區分ニ從ヒ之ヲ發スヘシ

第一 常時ノ費用ニ係ルモノハ每一ヶ月分ノ費額ヲ豫定シテ仕拂命令ヲ發スヘシ但在外各廳ノ經費外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費其他仕拂場所ノ一定セサル經費ハ事務ノ必要ニ由リ二ヶ月以上六ヶ月マテ合セテ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

第二 隨時ノ費用ニ係ルモノハ所要ノ費額ヲ豫定シテ事務上差支ナキ限リハ成ルヘク分割シテ仕拂命令ヲ發スヘシ

第三 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費ハ工事ノ大小ニ由リ其所要ヲ量リ三千圓以内ニ於テ仕拂命令ヲ發スヘシ

第四十條 會計法第十五條第八ニ據リ現金前渡ヲ爲シタルトキハ左ノ場合ヲ除クノ外更ニ同一ノ主任官吏ニ現金前渡ヲ爲スタメ仕拂命令ヲ發スル

コトヲ得ス

第一 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三分ノ二以上ノ仕拂濟證明アリタルトキ但此場合ニ於テハ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト前ニ發シタル仕拂命令ノ仕拂濟證明未濟ノ金額ト合シテ三千圓ヲ超ルコトヲ得ス

第二 前ニ發シタル仕拂命令ノ金額三千圓未滿ニシテ更ニ發スル仕拂命令ノ金額ト合シテ三千圓ヲ超サルトキ

第四十一條 現金前渡ヲ受ケタル官吏監督ノ規則ハ大藏大臣各省大臣ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第四十二條 會計法第十五條ニ據リ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金仕拂ヲ爲サシムル爲メニ發スル現金前渡ノ仕拂命令ハ國債元利金仕拂ノ場合ニ限ル

第四十三條 仕拂命令ハ所屬年度經過後滿五ヶ年内ハ仕拂ノ請求アルニ金庫ニ於テ仕拂フモノトス

第四十四條 各年度ニ屬スル經費ヲ精算シテ仕拂命令ヲ發スルハ翌年度六

月三十日限リトス

第二款 仕拂命令ノ執行

第四十五條 金庫ハ案内仕拂命令集合仕拂命令若クハ金庫所在地外ニ於テ仕拂ヲ要スル仕拂命令ヲ受ケタルトキ其命令合式ニシテ且仕拂豫算各項ノ金額ニ超過セサルトキハ仕拂ヲ爲スヘシ

金庫ニ於テハ休日ヲ除クノ外毎日其開庫時間内ハ何時ニテモ仕拂命令持參人ニ仕拂命令ト引替ニテ現金ヲ交付スヘシ(二十六勅令第百十號ヲ以テ本條改正)

第四十六條 左ノ場合ニ於テハ事由ヲ仕拂命令持參人ニ告ケ金庫ニ於テ仕拂命令ノ執行ヲ拒ムヘシ

第一 案内仕拂命令ノ到着セサルトキ

第二 仕拂命令ト案内仕拂命令ト符合セサルトキ

第三 仕拂命令汚損シ案内仕拂命令ト照合シ難キトキ

第四十七條 各年度ノ仕拂命令ニシテ翌年度七月三十一日マテニ仕拂ノ請求ナキ仕拂命令濟金額ニ相當スル資金ハ會計法第二十條ノ歲計剩餘ニ組

入レス圍庫ニ於テ繰越整理スヘシ(二十六勅令第百十二號ヲ以テ改正)

第四十八條 前條ノ資金中年度經過後滿五ヶ年内ニ仕拂ノ請求ナクシテ會計法第十八條ノ期滿免除ニ據リ政府ガ負債ノ義務ヲ免レタルモノアルカ爲メ不用トナリタルモノハ其負債ノ期滿免除トナリタル年度ノ歲入ニ組入ルヘシ

第三款 計算報告

第四十九條 金庫出納役ハ毎月仕拂命令受領濟額報告書ヲ調製シ其翌月中ニ大藏省ニ送付スヘシ但運輸不便ノ土地若クハ遠隔ノ地方ニシテ本文期限ニ據リ難キモノハ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ(二十六勅令第百十號ヲ以テ本條改正)

第五十條 (二十六勅令第百十號ヲ以テ本條削除)

第五章 決算

第一款 總決算

第五十一條 歲入歲出總決算ハ總決算ト同一ノ區分ニ據リ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第二款 各省決算報告書及收入支出計算書(二十六勅令第百十二號ヲ以テ本項中追加)

第五十二條 各省大臣ハ翌年度十二月三十一日マテニ各省豫定經費要求書

ト同一ノ區分ニ據リ其省所管ニ屬スル經費ノ決算報告書ヲ調製シ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

歳入ヲ調定スル官吏ハ會計検査院ニ証明ノ爲メ毎年度歳入調定額計算書ヲ調製シ証憑書類ヲ添へ年度經過後五ヶ月以内ニ其歳入事務管理廳ニ送付シ歳入事務管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ(二十六勅令第百十二號ヲ以テ本項以下三項ヲ追加)

仕拂命令官ハ會計検査院ニ証明ノ爲メ毎月支出ノ計算書ヲ調製シ証憑書類ヲ添へ翌月十五日マテニ其主管大臣ニ送付シ主管大臣ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

本條第二項第三項ノ場合ニ於テ歳入歳出ニ關スル計算書ハ特ニ監督ノ任アル官吏若クハ特ニ主管大臣ヨリ委任ヲ受ケタル官吏ヨリ直ニ會計検査院ニ送付セシムルコトヲ得

第三款 國債計算書

第五十三條 國債計算書ハ大藏大臣之ヲ調製スヘシ

第五十四條 國債計算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 當該年度末日ニ於ケル國債ノ種類及現高ヲ示ス所ノ計算

第二 當該年度ニ於テ償還シ及仕拂ヒタル各種國債ノ元高及利息ノ計算

第三 最近五ヶ年之間ニ於ケル各種國債増減ノ形況ヲ示ス所ノ計算

第四款 特別會計々々算書

第五十五條 特別會計々々算書ハ會計法第三十條ニ據リ特別ノ會計ヲ立ルコ

トヲ許サレタル事務ヲ管理スル所ノ各省大臣之ヲ調製シ毎年度經過後五ヶ月以内ニ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ

第五十六條 特別會計々々算書ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 收入計算

第二 支出計算

第三 最近五ヶ年間資金ノ増減

第四 最近五ヶ年度間損益ノ比較

第六章 定額繰越、過年度支出、定額戻入

第一款 定額繰越

第五十七條 各省大臣會計法第二十一條及第二十二條ニ據リ定額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ年度經過後二ヶ月以内ニ繰越シ計算書ヲ作り大藏大臣ノ承認ヲ經ヘシ(二十六勅令第百十二號ヲ以テ本條中改正)本條繰越計算書ハ歳出豫算ノ區分ニ從ヒ調製シ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 繰越ヲ要スル項ノ定額

第二 右定額ニ對シ年度内ニ仕拂命令濟トナリタル額及第四十四條ニ據リ翌年度六月三十日マテニ仕拂命令ヲ發スヘキ額(二十六勅令第百十二號ヲ以テ本條

加進

第三 右定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘキ額即チ翌年度ニ繰越ヲ要スル額

第四 右定額中全ク不用ニ歸シ決算ニ於テ取消スヘキ額

第五十八條 會計法第二十一條ニ據リ年度内ニ其經費ノ支出ヲ終ラサリシ

金額ヲ翌年度ニ繰越サントスルトキハ其繰越サントスル金額ノ計算書ニ各事件毎ニ竣功遅引ノ事由ヲ示シ又請負ニテ爲サシムル工事若クハ製造ナレハ竣功遅引ノ事由ノ外ニ請負人職業住所氏名ヲ示シ契約書ノ寫ヲ添ユヘシ

第五十九條 大藏大臣各省定額ノ繰越ヲ承認シタルトキハ之ヲ會計検査院

ニ通知スヘシ

第二款 過年度支出

第六十條 過年度ニ屬スル經費ノ支出ヲ爲ストキハ現年度各省定額ニ對シ仕拂命令ヲ發スヘシ(二十六勅令第百十號ヲ以テ本條改正)

第六十一條

(二十六勅令第百十號ヲ以テ本條削除)

第六十二條 第六十條ニ據リ支出セントスル經費ノ金額ハ豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキモノハ、外其經費所屬年度ノ豫算ニ於テ該經費ノ屬スル毎項定額中不用トナリタル金額ヲ超過スヘカラス

第三款 定額戻入

第六十三條 仕拂命令官會計法第二十三條但書ニ據リ定額ノ戻入ヲ爲サン
トネルトキハ其旨ヲ金庫ニ通知スヘシ(二十六勅令第百十號ヲ以テ本條改正)

第六十四條 金庫ハ定額ニ戻入ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ仕拂命令官ニ通知
スヘシ(二十六勅令第百十號ヲ以テ本條改正)

第六十五條 各年度ニ屬スル定額戻入ヲ爲スハ翌年度六月三十日ヲ過クル
コトヲ得ス(二十六勅令第百十二號ヲ以テ本條中刪除)

第六十六條 (二十六勅令第百十號ヲ以テ本條刪除)
第七章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第一款 總則

第六十七條 各省大臣五百圓以上ノ工事ニ付テハ竣功後其工事ヲ監督シ
タル官吏又ハ技術者ヲシテ之カ調書ヲ作ラシムヘシ(二十六勅令第百十號ヲ以テ本項追加)
契約ニ據リ工事ノ既濟部分又ハ物品ノ既納部分ニ對シ完濟前ニ代價ノ一
部分ヲ仕拂ハントスルトキハ各省大臣ハ特ニ検査ノ官吏ヲ命シテ事實ヲ
調査シ其調書ヲ作ラシムヘシ

仕拂命令官ハ前各項ノ調書ニ據ルニアラサレハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ
得ス(二十六勅令第百十二號ヲ以テ本項中改正)

第六十八條 前條第二項ノ仕拂ヲ爲サントスルトキハ工事ノ既濟又ハ物品
ノ既納トナリタル部分ニ對スル代價ノ五分ノ四ヲ超ユヘカラス(二十六勅令第百
十二號ヲ以テ
本條中追加)

第六十九條 工事又ハ物品供給ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハ
ントスル者ハ其工事又ハ物品ノ供給ニ二年以來從事スルコトヲ證明スヘ
シ

各省大臣ハ工事又ハ物品ノ性質ニ依リ必要アルトキハ前項ノ外特ニ省令
ヲ以テ其競争者ノ資格ヲ定ムルコトヲ得(二十六勅令第百十號ヲ以テ本項追加)
工事又ハ物品賣買ノ競争ニ加ハラントシ若クハ其契約ヲ結ハントスル者
ハ現金又ハ公債証書ヲ以テ保證金ヲ納ムヘシ(二十六勅令第百十二號ヲ以テ本項中改正)

第七十條 前條ノ保證金ハ左ノ制限ニ據リ各省大臣之ヲ定ムヘシ
第一 競争ニ加ハラントスル者ハ其事項ノ見積代金ノ百分ノ五以上

第三 契約ヲ結ハントスル者ハ其事項ノ代金ノ百分ノ十以上

第七十二條 競争ヲ落札者請負又ハ賣買ノ契約ヲ結ハサルトキハ其保證金

ハ政府ノ所得トス(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本條中追加)

第七十三條 競争契約

第七十二條 競争ハ總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フヘシ

第七十三條 入札ノ方法ヲ以テ工事及ハ物件ノ賣買貸借ノ契約セントスル

トキハ其入札期日ヨリ少ナクモ十五日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他

ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ

第七十四條 前條ノ公告ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

第一 競争入札ニ付スル事項

第二 契約書案ヲ示ス場所及其契約ノ取組ヲ擔任スル官吏ノ官氏名

第三 競争執行ノ場所日限及時刻

第四 入札ノ保證金額

第七十五條 各省大臣若クハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ其競争入札ニ付シタ

ル工事又ハ物件ノ價格ヲ豫定シ其豫定價格ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開
札場所ニ置クヘシ

第七十六條 開札ハ公告ニ示シタル場所日限時刻ニ入札人ノ面前ニ於テ之

ヲ行フヘシ

入札人又ハ其代理人若シ開札ノ場所ニ出席セサルトキハ其入札ハ無効ト

ス

第七十七條 開札ノ上ニテ各人ノ入札中一モ第七十五條ニ據リ豫定シタル

價格ノ制限ニ達セサルトキハ直ニ入札人ヲシテ再度ノ入札ヲ爲サシムル

コトヲ得

第七十八條 落札トナルヘキ同價ノ入札ヲ爲シタル者數名アルトキハ同價

ノ入札者ヲシテ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムヘシ

再度ノ入札ヲ爲スモ尙ホ同價ノ入札アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ

定ムヘシ

第七十九條 競争ノ落札者請負又ハ賣買貸借ノ契約ヲ結ハサルトキハ更ニ

競争ヲ行フヘシ但本條ノ場合ニ於テ第七十三條ノ期限ヲ七日マテニ短縮スルコトヲ得(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本條中追加)

第八十條 工事及物件ノ賣買貸借契約書ニハ其契約セシトスル事項ノ細密ナル設計、仕譯、落成期限、受渡期限、保證金高、契約違背ノトキ保證金ニ對スル處分、其他一切必要ナル條件ヲ掲クヘシ

第八十一條 契約ハ各省大臣若クハ特ニ其委任ヲ受ケタル官吏其契約書ニ署名捺印スルニアラサレハ確定セサルモノトス

第三款 隨意契約

第八十二條 隨意契約書ハ第八十條及第八十一條ニ準據シ之ヲ作ルヘシ但一口五百圓未滿ノ隨意契約ノ場合ニ於テハ本文ノ契約書ヲ省略スルコトヲ得(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本條但書改正)

第八十三條 隨意契約ノ場合ニ於テハ各省大臣ノ見込ニヨリ請負人ノ保證金ヲ免除スルコトヲ得

第八章 出納官吏

第一款 收入官吏現金前渡ヲ受ケタル官吏(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本項中削除)

第八十四條 出納官吏ハ其責任ニ屬スル會計ニ付自身ニ事務ヲ執ラサルヲ理由トシテ其責任ヲ免ルコトヲ得ス但各省大臣ノ命令ヲ以テ特ニ其代理官若クハ分任官ヲ定メタルトキ其代理官若クハ分任官ノ所爲ニ付テハ本條ノ限ニアラス(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本條但書改正)

前項代理官ハ出納官吏ノ事務ノ全部ヲ代理シ分任官ハ其一部ヲ分掌スルモノトス(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本項追加)

第八十五條 各省大臣ノ命シタル出納官吏代理官若クハ分任官ハ其所爲ニ付會計法第二十六條ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本條中改正)

第八十六條 出納官吏ハ現金前渡及現金收入ニ關シ大藏大臣ノ指揮監督ヲ受ク(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本條改正)

第八十七條(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本條削除)

第八十八條 各省大臣ハ所屬出納官吏ノ所爲ニ由リ政府ノ損失ヲ生シタリト認ムル場合ニ於テハ會計検査院ノ判決以前ト雖モ其出納官吏ニ向テ辨

償ヲ命スルコトヲ得

第八十九條 前條ノ場合ニ於テ其辨償ヲ命ゼラレタル出納官吏負擔ノ責ヲ免ルヘキ理由アリト信スルトキハ計算書ヲ作り證據書類ヲ添へ本屬大臣ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付シ其判決ヲ求ムルコトヲ得

各省大臣ハ前項ノ場合ニ雖モ其命シタル損失金ト辨償ヲ猶豫セス
會計検査院ニ於テ其出納官吏ニ向テ辨償ノ責ナシト判決シタルトキハ其既納ニ係ル辨償金ハ直ニ之ヲ還付ス

第九十條 (二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本條削除)

第九十一條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日若クハ該官吏轉免死亡停職ノトキ本屬大臣検査員ヲ命シテ之ヲ検査セシムヘシ但臨時ニ現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ハ定時ノ検査ヲ要セス
大藏大臣又ハ各省大臣ハ必要ト認ムルトキハ臨時ニ検査員ヲ命シテ現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査セシム

ルコトアルヘシ

第九十二條 前條ノ検査ヲ執行スルニ當リ主務ノ出納官吏事故ニ由リ自身検査ヲ受クル能ハサルトキハ其代理者若クハ特ニ本屬大臣ノ命シタル官吏ニ於テ立會ヲ爲スヘシ

第九十三條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏ノ帳簿金櫃ヲ検査シタルトキハ其檢定書ニ通テ製シ検査員及主務ノ出納官吏若クハ立會人之ニ署名シ一通ハ該官吏若クハ立會人ニ交付シ一通ハ本屬大臣ニ提出スヘシ

第九十四條 現金ヲ領收スル收入官吏及現金前渡ヲ受ケタル官吏他ノ公金ノ出納ヲ兼掌スルトキハ別ニ検査ノ方法アルニ拘ハラズ金櫃ノ検査ヲ執行スル場合ニ於テハ他ノ公金ヲ併セテ検査ヲ行フヘシ

第九十五條 收入官吏ハ毎年度經過後五ヶ月以内ニ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年度會計事務ノ計算書ヲ調製シ証憑書類ヲ添へ之ヲ歲入ノ事務管理廳若クハ特ニ監督ノ任アル官吏ニ送付スヘシ(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本條

(改正)

第九十六條 歳入ノ事務管理廳ノ部局若クハ特ニ監督ノ任アル官吏ハ前條計算書ノ下検査ヲ執行シ其下検査書ヲ添へ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

(二十六年令第百十二號ヲ以テ本條中創除)

第九十七條 現金ヲ領收スル收入官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添へ毎年度經過後二ヶ月以内ニ歳入ノ事務管理廳ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

在外各廳ニ勤務スル現金ヲ領收スル收入官吏ノ前條計算書及證憑書類ハ毎年度經過後一ヶ月以内ニ其廳ヲ發シ之ヲ歳入ノ事務管理廳ニ送付シ其管理廳ハ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ

第九十八條 現金前渡ヲ受ケタル官吏ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ各省大臣ノ定ムル所ニ據リ毎月一回若クハ數回經費仕拂ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添へ仕拂命令官ニ送付シ仕拂命令官ハ其下検査ヲ執行シ

下検査書ヲ添へ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ但行軍費航海費ノ如キハ行軍若クハ航海ノ終リタルトキ本條ノ手續ヲ爲スコトヲ得

第九十八條ノ二分任出納官吏ノ出納ハ總テ主任出納官吏ノ計算トシテ取扱ヒ其報告書及計算書ハ各別ニ提出ヲ要セス但各省大臣若クハ會計検査院ニ於テ必要ト認ムルトキハ特ニ分任出納官吏ヲシテ報告書又ハ計算書ヲ提出セシムルコトアルヘシ(二十六年勅令第百十號ヲ以テ本條追加)

第九十九條 出納官吏交替ヲ爲シタルトキハ其在職期限經過後六十日以内ニ其在職期限間ニ執行シタル會計ノ計算書ヲ調製シ第九十五條第九十七條第九十八條ノ手續ヲ爲スヘシ

第百條 出納官吏死亡其他ノ事故ニ由リ自身ニ計算書ヲ調製スル能ハサルトキハ各省大臣特ニ命シタル官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ
出納官吏定期内ニ計算書ヲ送付セサルトキハ各省大臣ハ他ノ官吏ニ命シテ之ヲ調製セシムヘシ

本條ニ據リ調製シタル計算書ハ出納官吏ノ自身ニ調製シタルモノト見做

シ會計検査院ニ於テ検査判決ヲ爲スヘシ

第一百一條 出納官吏ノ計算書ハ提出ノ後修正變更スルコトヲ得ス
第一百二條 會計法第二十八條ニ據リ出納官吏ノ納ムヘキ身元保証金額ハ各

省大臣大藏大臣ト協議シテ之ヲ定メ會計検査院ニ通知スヘシ
出納官吏相當ノ資産アルモノ二人以上ヲ以テ保証人ト爲ストキハ各省大
臣前項ノ身元保証金ノ全部若クハ一部ヲ免除スルコトヲ得此場合ニ於テ
ハ各省大臣ヨリ其保証人ノ住所氏名職業ヲ會計検査院ニ通知スヘシ(二十
六年勅令第百十二號
ヲ以テ本項中削除)

第一百三條 身元保証金ハ現金ヲ以テ納ムヘシ但公債證書若クハ土地ヲ以テ
現金ニ代用スルコトヲ得

第一百四條 身元保証ノ現金ハ大藏省「預金局」通常預金ノ利ヲ付スヘシ
身元保証ニ供スル公債證書若クハ土地ハ出納官吏ヨリ各省大臣ニ書入ト
シ其土地ハ出納官吏ノ私費ヲ以テ登記ヲ受クヘシ(二十六年勅令第百十二
號ヲ以テ本條中改正)

第一百五條 會計検査院ノ判決ニ依リ各省大臣出納官吏ノ損失金辨償ヲ命シ

タル場合ニ於テ其指定シタル期限内ニ出納官吏ヨリ損失金ノ辨償ヲ爲サ
サルトキハ其身元保証金ヲ以テ辨償ニ充ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ身元保証金ニ代用シタル公債證書若クハ土地ハ各省大
臣之ヲ公賣ニ付シ其代價ヨリ損失金額ヲ差引シ剩餘アルトキハ出納官吏
ニ返付スヘシ(二十六年勅令第百十二
號ヲ以テ本條中削除)

保証人ヲ以テ身元保証金ノ免除ヲ得タル官吏損失金ノ辨償ヲ命セラレタ
ル場合ニ於テ辨償スルコト能ハサルトキハ其保証人ヲシテ損失金ヲ辨償
セシムヘシ

第一百六條 前條ノ場合ニ於テ出納官吏ノ身元保証金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ
充ルニ足ラサルトキハ其不足ハ出納官吏及其保証人ヨリ徴收スヘシ

第一百七條 出納官吏數職ヲ兼務シタルカ爲メ各職毎ニ身元保証ヲ爲シタル
トキト雖モ身元保証金ハ出納官吏ノ責任其何職ヲ行ヒタルヨリ生シタル
ヲ問ハス流用シテ辨償ニ充ツヘシ

第一百八條 出納官吏ハ其身元保証金ヲ以テ損失金ノ辨償ニ充テラレタルカ

爲メ其身元保證金額定規ノ高ヨリ減シタルトキハ各省大臣ノ指定シタル期限内ニ其減少高ヲ追納スヘシ期限ヲ過キ追納ヲ爲サ、ルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス

第九條 出納官吏轉職其他ノ事故ニ由リ身元保證金ノ増納ヲ要スルトキハ其轉職若クハ事故ノ生シタル日ヨリ起算シ六ヶ月以内ニ増納スヘシ期限ヲ過キ増納ヲ爲サ、ルトキハ其職務ヲ執ルコトヲ得ス
身元保證金トシテ納メタル公債證書若クハ土地ノ價格改定ノ爲メ身元保證金額定規ノ高ヨリ減少シ之カ補填ヲ要スル場合ニ於テハ前項ノ例ニ據ル

第十條 出納官吏ノ身元保證金ハ其解職後會計検査院ニ於テ其官吏ノ執行シタル會計事務ニ付責任解除ヲ與ヘタル後ニ非サレハ之ヲ還付セス

第二款 金庫出納役

第十一條 會計法第三十一條ニ據リ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命シタル場合ニ於テハ日本銀行總裁ハ金庫出納役トシテ金庫ノ出納ヲ掌ルヘシ

金庫出納役ハ會計検査院ノ検査判決ヲ受クル爲メ毎年度經過後四ヶ月以内ニ一年度内ニ執行シタル出納ノ計算書ヲ調製シ證書憑類ヲ添ヘ之ヲ大藏大臣ニ送付スヘシ(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本條中改正)

金庫出納役ハ會計検査院ノ検査ヲ受クル爲メ毎月各金庫出納内譯書ヲ調製シ證書憑類ヲ添ヘ其翌月中ニ大藏大臣ニ送付スヘシ但運輸不便ノ土地若クハ遠隔ノ地方ニシテ本文期限ニ據リ難キモノハ豫メ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ(二十六年勅令第百十號ヲ以テ本項追加)

大藏大臣ハ前各項ノ出納計算書及内譯書ヲ調査シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ(二十六年勅令第百十號ヲ以テ本項追加)

第九章 帳簿

第十二條 大藏省ハ日記簿原簿補助簿ヲ備ヘ國庫ノ計算ニ入ルヘキ一切現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第十三條 大藏省ハ歳入歳出ノ主計簿ヲ備ヘ總テ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額、歳出ノ豫算額、仕拂命令濟額ヲ登記スヘシ

第百十四條 收入官吏ハ收入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區別シ調定濟額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第百十五條 歳入ノ事務管理廳ハ歳入簿ヲ備ヘ歳入ノ種類ヲ區分シ歳入ノ豫算額、調定濟額、收入濟額、收入未濟額ヲ登記スヘシ

第百十六條 金庫出納役ハ支出簿ヲ備ヘ歳出ノ科目ヲ區分シ仕拂豫算額、仕拂命令受領濟額ヲ登記スヘシ(二十六年勅令第百十二號ヲ以テ本條中改正)

第百十七條 (二十六年勅令第百十號ヲ以テ本條削除) 現金ヲ領收スル收入官吏、現金前渡ヲ受ケタル官吏及金庫出納役ハ現金出納簿ヲ備ヘ現金ノ出納ヲ登記スヘシ

第百十九條 各年度經過後八ヶ月ノ末日ニ於テ大藏大臣ハ會計検査官立會ノ上ニテ大藏省ニ備ヘタル主計簿ヲ締切ルヘシ

第十章 雜則

第百二十條 本規則ニ據リ當該官吏及金庫出納役ヨリ會計検査院ニ提出スル所ノ證明書ニ關スル規程様式ハ會計検査院ニ於テ之ヲ定ムヘシ(二十六年勅令)

第百十二號ヲ以テ本條中改正

第百二十一條 前條ノ外本規則ニ掲クル諸計算書仕拂命令領收證ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第百二十二條 帳簿ノ様式及記入ノ方法ハ大藏大臣之ヲ定ムヘシ

第百二十三條 本規則ハ明治二十三年四月一日ヨリ施行ス
本規則ト牴觸スル命令ハ本規則施行ノ日ヨリ總テ廢止ス

○太政官達第九十六號 七年七月廿四日

院省使府縣

諸帳簿並納受證書中金穀及物品員數ニ關係アル分自今一二十ノ文字ハ壹貳拾ノ字跡可相用此旨相達候事

○大藏省令第二十一號 廿三年九月四日
會計法ニ基キ計算出納ニ關スル諸證書中ニ記載スル金員ニシテ「三」「廿」

「卅」ノ數字ハ自今「參」「貳拾」「參拾」ノ字跡ヲ用ユヘシ

○太政官達第九十三號 八年六月二日

院省使廳府縣

諸公文書郵送ノ節ハ量目ノ調査周密注意スヘキハ勿論ニ付差違等無之筈ニ候得共若シ前拂稅不足スル時ハ其不足稅及增稅共郵書受取先官廳ノ仕拂ニ可相立此旨相達候事

○大藏省令第三十二號 二十六年十一月二十日
明治二十二年當省令第十一號諸計算書仕拂命令領收證及諸帳簿ノ様式左ノ通改正ス

附 則

本令ハ明治二十七年一月一日ヨリ施行ス
目下現存ノ用紙帳簿ニシテ尙ホ使用シ得ヘキ者ハ之ヲ取繕ヒ當分使用スル

モ妨ケナシ

第六號書式 仕拂命令
自第一號書式 畧ス
至第五號書式 畧ス
自第七號書式 畧ス
至第十四號書式 畧ス

備考 會計規則第三十三條ノ仕拂命令用紙ハ大藏省ニ於テ調製シ各省ノ請求ニ由リテ配付スルモノトス

(一) 内及各書式ノ備考並ニ印章ハ孰モ朱、△印ハ藍

〔第六號書式甲ノ一〕

令

部(臨時部)〕

〔何々(項)〕

日

名 印

〔何〕日金庫へ送付

仕拂命令官割印

印

仕 拂 命 令

△
甲第何號 [某]年度歳出 [經常部(臨時部)]

[何廳所管] [何々(款)] [何々(項)]

△
金[參百圓也]

[何之誰] 渡

本行ノ金額此仕拂命令持參人ニ仕拂可有之候也

明治[何]年[何]月[何]日

仕拂命令官[官氏名] 印

[何地金庫宛]

△
300,000

仕拂命令官割印

印

案 內 仕 拂 命

△
乙第[何]號 [某]年度歳出 [經常

[何廳所管] [何々(款)]

△
金[參百圓也]

[何之誰] 渡

明治[何]年[何]月[何]

仕拂命令官[官氏

[何地金庫宛]

△
明治[何]年[何]月

〔第六號書式甲ノ二〕

裏面

第二

備考

表書之金額ハ何府(縣)下何地

何某へ仕拂ヲ要ス

仕拂命
令官印

明治何年何月何日金庫へ送付

又ハ

(金額氏名表ニ記載スル所ノ

場所ニ於テ各債主ニ仕拂ヲ要ス)

會計規則第三十五條ニ據リ金庫所在地外ノ債主ニ仕拂ヲ要スルトキ金庫ニ送付スヘキ仕拂命令集合仕拂命ハ此書式ニ據リ裏書ヲ爲スモノトス但此場合ニ於テハ案内仕拂命令送付ヲ要セス
 集命送付ニテ送金スル場合ニハ金庫所在地ニ於テ仕拂命送付ヲ要ス
 集命送付ニテ送金スル場合ニハ金庫所在地ニ於テ仕

明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日

第〔何〕號

〔某〕年度歳出〔經常部(臨時部)〕

〔何廳所管〕〔何々(款)〕〔何々(項)〕

金〔參百圓也〕

〔何之誰〕渡

〔何地金庫〕

「仕拂命令官割印」

印

前 渡 仕 拂 命 令

△
甲第[何]號 [某]年度歲出 [經常
部(臨時部)]

[何]廳所管 [何々(款)] [何々(項)] 前渡

△
金[壹萬圓也]

本行之金額[何官何ノ誰] = 仕拂可有之
候也

明治[何]年[何]月[何]日

仕拂命令官[官氏名]印

[何地金庫宛]

△
10.000.000

「仕拂命令官割印」

印

「第六號書式乙」

案 內 仕 拂 命 令

△
乙第[何]號 [某]年度歲出 [經常
部(臨時部)]

[何]廳所管 [何々(款)] [何々(項)] 前渡

△
金[壹萬圓也]

[何官何之誰] 渡

明治[何]年[何]月[何]日

仕拂命令官[官氏名]印

[何地金庫宛]

△
明治[何]年[何]月
[何]日金庫~送付

仕拂命令官割印

印

[第六號書式丙ノ一]

集合仕拂命令

△
第 [何] 號 [某] 年度歳出 [經常部(臨時部)]

[何廳所管] [何々(款)] [何々(項)] 集合

△
金 [參千圓也]

[何之誰外何人] 渡

本項ノ金額此仕拂命令付属ノ金額氏名表ニ照シ仕拂可有之候也

明治 [何] 年 [何] 月 [何] 日

仕拂命令官 [官氏名] 印

[何地金庫宛]

△
明治 [何] 年 [何] 月 [何] 日 金庫へ送付

△
3,000,000

合 命 書 式 丙 一

明治 [何] 年 [何] 月 [何] 日

△
第 [何] 號 [某] 年度歳出 [經常部(臨時部)]

[何廳所管] [何々(款)] [何々(項)] 前渡

△
金 [壹萬圓也]

[何官何之誰] 渡

[何地金庫]

〔第六號書式丙ノ二〕

備考

金庫所在地外ニアル債主ニ送金ヲ要スル場合ニハ各債主氏名ノ右側ニ各送金先場所ヲ記載スルモノトス

集合仕拂命令第〔何〕號金額氏名表

〔某〕年度歳出〔經常部(臨時部)〕

〔何々(款)〕〔何々(項)〕

一金〔參千圓也〕

〔何之誰外何人〕渡

内譯

金〔千五百圓〕

第壹號

〔何之誰〕渡

金〔千圓〕

第貳號

〔何之誰〕渡

金〔五百圓〕

第參號

〔何之誰〕渡

明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日

〔何廳〕仕拂命令官〔官氏名〕印

明治〔何〕年〔何〕月〔何〕日

第〔何〕號

〔某〕年度歳出〔經常部(臨時部)〕

〔何廳所管〕〔何々(款)〕〔何々(項)〕集合

金〔參千圓也〕

〔何之誰外何人〕渡

〔何地金庫〕

○大藏省令第十七號 二十三年七月十七日

本年勅令第二百五號ニ據リ官吏遺族扶助法第二條ノ納金收入規則制定ニ付文官判任以上ノ者俸給支給ニ係ル仕拂命令仕拂請求書及金額氏名表仕拂命令官ヨリ交付スル通知書々式左ノ通相定ム(二十六年十一月大藏省令第...二十八號ヲ以テ本文中改正)

【備考】

【第一仕拂命令官ニ於テ俸給ノ仕拂ヲナスニ當リ其仕拂命令若クハ仕拂請求書ノ金額ノ内譯額ノ二項ニ分チ一ハ現金支給高一ハ國庫納金高(即チ俸給百分ノ一)ト爲シ式ノ如ク列記シテ仕拂命令若クハ仕拂請求書ヲ發スルモノトス

【第二仕拂命令官ニ於テ前項ノ仕拂命令若クハ仕拂請求書ヲ發シタルトキハ同時ニ該仕拂命令若クハ仕拂請求書ニ記載セル國庫納金高年度主管廳番號積注ノ氏名等ヲ仕拂命令若クハ仕拂請求書一葉毎ニ歳入ノ調定官ヘ報告ヲナスモノトス

【第三歳入ノ調定官ニ於テ仕拂命令官ヨリ前項ノ報告ヲ受ケタルトキ

ハ即日其旨ヲ收入官吏ヘ通知ヲナスモノトス

【第四集合仕拂命令集合仕拂請求書ノ内受取人總代人ヘ交付スヘキ分又ハ各廳ニ於テ官吏申合セノ上其一人ヲ總代人トナシ之ニ仕拂ノタメ仕拂命令仕拂請求書ヲ發シ金庫所在地外ヘ送金ヲ要スル分ノ通知書ニハ表面裏面共「何某」トアル傍ニ肩書ニテ何廳勤務何ノ誰外何人總代人ト記入スルモノトス

【第五毎年度三月三十一日ヲ過キ發スル其年度所屬ノ仕拂命令若クハ仕拂請求書ニハ收入官吏官氏名ノ次ヘ「某年度歳入」ト記入スヘシ此某年度トハ仕拂命令若クハ仕拂請求書ヲ發スル日ノ屬スル年度ヲ云フ此場合ニ於テハ第二項ニ依リ報告スル年度ハ歳入ノ屬スル年度ヲ意味スルモノトス(二十四年四月大藏省令第八號ヲ以テ本項追加)

【備考】
【内及印章ハ孰モ朱】

【仕拂請求書ナルトキハ仕拂命令持參人云々トアルヲ仕拂請求書持參人云々ト記シ又仕拂請求書及集合仕拂請求書ニハ作業及鐵道

「仕拂命令官割印」

印

案 内	
乙 第 [何] 號	[某] 年度歳出
[何 廳 所 管]	
金 [五拾圓也]	現金支給高
金 [四拾九圓五拾錢也]	
金 [五十錢也]	
國庫納金引去高	
[又ハ]	
[(何	
明治[何]	
某 省所管 何廳 收入	明治[何]年[何]
官吏 官氏名	

仕 拂 命 令

[經常部 (臨時部)]
[何々(款)] [何々(項)]
[何 之 誰] 渡
之誰外何人代人何ノ誰)
年[何]月[何]日
仕拂命令官[官氏名] 印
[何地金庫宛]
月[何]日金庫へ送付

(二十六年十一月大藏省令第二十八號ヲ以テ仕拂命令仕拂請求書々式改正)

會計ニ於テハ歳出經常部(臨時部)トアルヲ「作業(鐵道)會計部歳出」ト記シ學校及圖書館會計ニ於テハ歳出經常部ノ上ニ「學校及圖書館會計部」ノ九字ヲ加記スルモノトス

仕 拂 命 令

明治何年何月何日	第何號	某年度歲出	經常部(臨時部)
	何廳所管	何々(款)	何々(項)
	金五拾圓也	現金支給高	國庫納金引去高
	金四拾九圓五拾錢也		
	金五拾錢也		
		何之誰	渡
		又ハ	
		(何之誰外何人代人何之誰)	
		本行ノ金額此仕拂命令持參人ニ仕拂可有之候也	
		明治何年何月何日	
		仕拂命令官	官氏名
		何地金庫	宛
某省所管	何廳	收入官吏	官氏名

仕拂命令官割印

仕 拂 命 令

甲第何號	某年度歲出	經常部(臨時部)
	何廳所管	何々(款) 何々(項)
	金五拾圓也	現金支給高
内	金四拾九圓五拾錢也	國庫納金引去高
	金五拾錢也	
		何之誰 渡
		又ハ
		(何之誰外何人代人何之誰)
		本行ノ金額此仕拂命令持參人ニ仕拂可有之候也
		明治何年何月何日
		仕拂命令官
		官氏名
		何地金庫
		宛
某省所管	何廳	收入官吏
入官吏	官氏名	聽收
		50.000

印

明治[何]年[何]月[何]日	第[何]號 [某]年度歲出 [經常部(臨時部)]			
	何廳所管 [何々(款)] [何々(項)] 集合			
	<table border="1"> <tr> <td>金[百圓也]</td> </tr> <tr> <td>內金[九拾九圓也] 現金支給高</td> </tr> <tr> <td>金[壹圓也] 國庫納金引去高</td> </tr> </table>	金[百圓也]	內金[九拾九圓也] 現金支給高	金[壹圓也] 國庫納金引去高
金[百圓也]				
內金[九拾九圓也] 現金支給高				
金[壹圓也] 國庫納金引去高				
	[何之誰外何人] 渡			
	[又ハ]			
	[(何之誰外何人何之誰外何人)]			
	[何地金庫]			
	[某]省所管 [何廳] 收入官吏 [官氏名]			

仕拂命令官割印

印

集合仕拂命令					
第[何]號	[某]年度歲出 [經常部(臨時部)]	[何廳所管] [何々(款)] [何々(項)] 集合			
	<table border="1"> <tr> <td>金[百圓也]</td> </tr> <tr> <td>內金[九拾九圓也] 現金支給高</td> </tr> <tr> <td>金[壹圓也] 國庫納金引去高</td> </tr> </table>	金[百圓也]	內金[九拾九圓也] 現金支給高	金[壹圓也] 國庫納金引去高	
金[百圓也]					
內金[九拾九圓也] 現金支給高					
金[壹圓也] 國庫納金引去高					
	[何之誰外何人] 渡				
	[又ハ]				
	[(何之誰外何人代人何之誰外何人)]				
	本行ノ金額此仕拂命令付屬ノ金額氏名表ニ照シ仕拂可有之候也				
	明治[何]年[何]月[何]日				
	仕拂命令官 [官氏名] 印				
	[何地金庫宛]				
[某]省所管 [何廳] 收入官吏 [官氏名]	明治[何]年[何]月[何]日 [何]日金庫へ送付	[100.000]			

用紙適宜 縱四寸五分 横三寸三分

(「丙及印章ハ孰モ朱」)

通 知 書

「取扱廳」	「番 號」	「現金庫」	「何地金庫」	受取人
「某」年度	「仕拂命令(仕拂請求書)又ハ集合仕拂命令(集合仕拂請求書)」	「何」	「何」	金庫ヨ
第「何」號	金額氏名表第何號	「(金額氏名表云云ノ記入ヲ要スルハ集合仕拂命令集合仕拂請求書ノ場合ニ限ル)」	「(金額氏名表云云ノ記入ヲ要スルハ集合仕拂命令集合仕拂請求書ノ場合ニ限ル)」	リ現金
「金」貳拾圓也	俸 給 高	「金」拾九圓八拾錢	現金支給高	受取ノ
「金」貳拾錢	國庫納金引去高	國庫納金引去高	國庫納金引去高	際裏面
右金額ニ對スル「仕拂命令(仕拂請求書)」	本日	本日	本日	ニ年月
金庫へ交付候條該金庫ヨリ現金ヲ受取ルヘシ	「何」應仕拂命令官	「何」	「何」	日ヲ記
明治「何」年「何」月「何」日	「何」	「何」	「何」	入シ記
「何」某「殿」	「何」	「何」	「何」	名捺印
				シテ之
				ヲ金庫
				ニ交付
				スヘシ

通 知 書 裏 面

表書ノ金額領収候也

明治「何」年「何」月「何」日

「何」地「金庫」宛

受取人 「何」某「印」

某年度集合仕拂命令 第何號金額氏名表 請求書

一金百圓也

内

金九拾九圓也

金壹圓也

内譯

何廳勤務

何ノ誰外何人俸給高

現金支給高

國庫納金引去高

金貳拾圓也

(第一號)

何ノ誰渡

内

金拾九圓八拾錢也

現金支給高

金貳拾錢也

國庫納金引去高

金何圓也

(第 號)

何ノ誰渡

内

金何圓何拾錢也

現金支給高

金何錢也

國庫納金引去高

明治何年何月何日

何廳仕拂命令官々氏名印

○大藏省訓令第四十八號 三十一年七月六日

歳入歳出年度科目所管廳誤記訂正手續

一 歳入ノ調定官ニ於テ納額告知書又ハ納額ノ通達書發付ノ後科目

(經常卜臨時卜ノ誤記モ科目ニ準ス以下同シ)所管廳ニ誤記アルヲ發見シタルトキハ科目又ハ所管廳訂正書

ヲ收入官吏ニ送付スル事

二 收入官吏ニ於テ第一項ノ科目所管廳訂正書ヲ受ケタルトキハ直チニ收入簿ニ訂正ノ記入ヲ爲シ其ノ記入ヲ爲シタルトキハ既ニ其ノ月ノ計算締切後ナルトキハ訂正シタル月ノ收入報告書ニ之ヲ掲記シ事由欄内ニ其ノ事由ヲ詳記スル事

三 收入官吏ニ於テ科目所管廳訂正書ヲ受ケタル收入金ハ既ニ納額告知書若クハ納付書ニ依リ金庫ニ現金ヲ收入セシモノナルトキ又ハ收入官吏ニ於テ現金拂込書ノ科目所管廳ニ誤記アルヲ發見シタルトキハ直チニ收入官吏ヨリ關係金庫ニ其ノ科目所管廳ノ訂正ヲ請求スル事
但本項ニ於テ科目ノ訂正ヲ金庫ニ請求スルハ國稅科目ト國稅外諸收入科目トノ誤記アル場合ニ限ル

四 金庫ニ於テ第三項ノ訂正請求若クハ明治二十四年大藏省令第十一號ニ依リ歳入年度ノ訂正請求ヲ受ケタルトキハ直チニ現金出納原簿歳入金各官廳内譯簿其ノ他關係帳簿ニ之レカ訂正ノ記入ヲ爲ス事

五仕拂命令官ニ於テ仕拂命令集合仕拂命令ヲ發行シタル後年度科目所管廳ニ誤記アルヲ發見シタルトキハ年度科目所管廳訂正書ヲ金庫ニ送付スル事

六金庫ニ於テ第五項訂正書ノ送付ヲ受タルトキハ直チニ支出簿其ノ他關係帳ニ訂正ノ記入ヲ爲ス事

七歳入歳出ノ誤記ヲ訂正スルハ總テ翌年度七月三十一日限リトス

但金庫ニ於テ訂正ヲ爲スハ翌年度七月三十一日以前訂正請求書ヲ受ケタルモノニ限ル

○大藏省訓令第七十一號 二十三年四月三十日

北海道廳 府縣

甲廳ヨリ乙廳ニ向テ收入金ヲ收納スルモノアルトキ其ノ取扱順序左ノ通心得ヘシ

第一條 甲廳ヨリ乙廳ニ向テ明治二十六年當省訓令第四十二號諸收入收納

取扱規程附屬乙號書式納入告知書ヲ發スヘシ(二十六年十二月訓令第七十八號ヲ以テ本條中改正)

第二條 乙廳ニ於テ甲廳ヨリ納入告知書ヲ受ケタルトキ乙廳支拂命令官ハ甲廳收入官吏ヲ受取人トシテ仕拂命令ヲ發スヘシ

前項ノ場合ニ於テ甲廳所在地ト仕拂命令ヲ宛テタル金庫所在地ト同一ナルトキハ乙廳仕拂命令官ヨリ仕拂命令ヲ直チニ甲廳收入官吏ニ送付スヘシ又甲廳所在地ト仕拂命令ヲ宛テタル金庫所在地ト異ナルトキハ會計規則第三十五條但書ニ依リ仕拂命令ヲ金庫ニ送付スヘシ(廿六年訓令第七十八號ヲ以テ本項中改正)

第三條 甲廳ノ收入官吏前條ノ仕拂命令ヲ受取タルトキハ會計規則第二十五條ノ領收証書ヲ乙廳ノ仕拂命令官ニ送付スヘシ但會計規則第三十五條但書ノ場合ニ於テ收入官吏金庫ヨリ現金ノ遞送ヲ受タルトキハ「二十三

年當省訓令第十八號第二十三條ニ依リ會計主務官ヨリ送付シタル領收証書用紙若クハ「明治二十六年當省訓令第四十號第二條ニ依リ仕拂命令官ヨリ交付シタル通知書ノ如ク記入捺印シ金庫ニ交付スヘシ(全上本條中改正)

第四條 甲廳ノ收入官吏ハ仕拂命令又ハ現金ニ拂込書ヲ添ヘ諸收入收納取